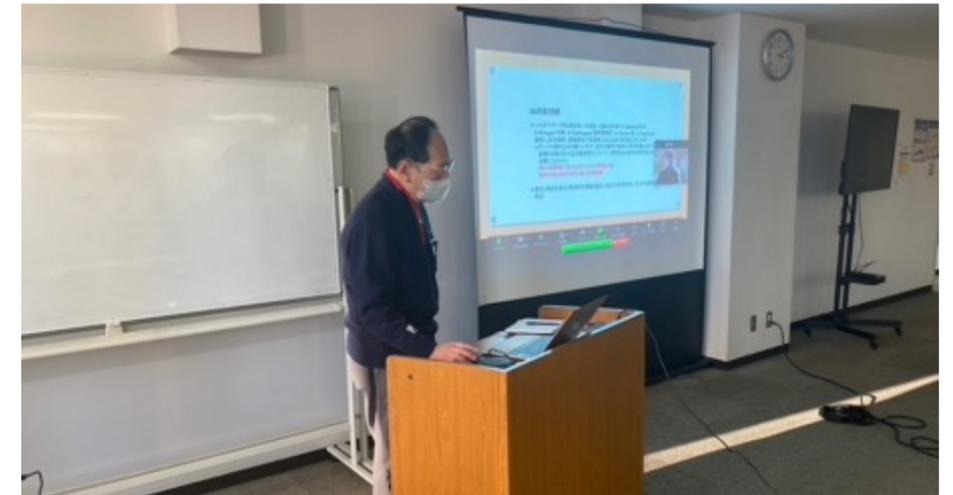


「防災塾・だるま」サロン発表会 2022

- 日時 2022年12月15日
- 会場 さくらリビング



Cサロン2021～2022活動報告

公助・共助・自助の隔たりの 「突破!」

～風水害・地震等地区タイムラインの検討～

2022年度 「防災塾・だるま」防災サロンC(自助・共助・公助連携)発表資料 (12.13)

<p>サロン名称</p>	<p>「自助・共助・公助」連携推進サロン</p>
<p>2021年度 サロンの課題 意識(前年度記 録から)</p>	<p>メンバーは、それぞれの「地区」で「地域防災拠点(避難所)運営委」、「防災隊」「防災ライセンス指導員」「元校長」「議員」などの立場で、地域防災の連携構築に取り組んでいる。共通して課題と感じているのは、地区の枠組み、住民、自治会等、学校、行政の防災についての意識と連携体制が乖離していることである。これらの「連携」を推進し、災害を克服できる地区づくりを実現したい。</p>
<p>活動目標(案)</p>	<p>「地区」に存在する自助・共助・公助の間にある隔たりを「突破」し、これらを統合する防災まちづくりの実現をめざす。～「地区防災計画」制度の活用、風水害・地震等地区タイムラインの検討～</p>
<p>Cサロン主催 「防災まちづくり 談義の会」実施 計画</p>	<p>1 日時 7月22日(金)15:00～16:15 2 講師 河原典子 防災・災害対策委員会委員長 一級建築士 「防災塾・だるま」理事 3 演題 多摩区における 台風19号被害実態から 防災まちづくりを考える ～床上浸水住宅の現実と復旧の問題点から 浸水地域・住宅の防災と課題～</p>
<p>エクステンシ ョン講座Cサロン 取組計画案</p>	<p>1 10月22日土曜日(第4日) 2 演題 「自助・共助・公助が連携し、減災ができる防災まちづくりの実践」 3 講師 鷺山龍太郎(塾長) 河原典子(一級建築士) 4 内容 Cサロンメンバーの被災体験、防災まちづくりの実践例をもとに、地区の自助・共助・公助が連携して災害への備えをできる必要性と実現可能性を提示し、「地区タイムライン」推進を提案する。 5展開 【起】水害被災体験からわかった地区連携の必要性(河原) 【承】学区全体での連携体制構築事例、マンションでの連携構築事例(鷺山) 【転】「防災基本計画改正」後のタイムライン・地区タイムラインの理解 【結】地区タイムライン構築と実質的防災計画づくり(鷺山)タイムライン統合システムの体験</p>

Cサロンは三つの災害に向き合う

- 1 東日本大震災 大川小学校津波事故**
- 2 19年台風19号災害**
- 3 未来の鶴見川洪水災害（港北区）**

東日本大震災石巻市立大川小学校他の災害から得られたた教訓

- 行政・学校・地域自治会の災害リスクへの認識、大津波警戒警報後の行動、避難場所について（今で言う）「タイムライン」が整合されていなかった。
- 14：46地震発生。14：49津波警報。職員はこれから対応を協議し、教頭は裏山への避難を提案したが、「区長」が阻止。15：10「三角地帯」への避難を開始したのを目撃されているが、直後に津波に襲われた。（仙台高裁判決主文から）
- 判決では、学校保健法30条により、校長は地域住民の津波認識を説得し、地域住民、保護者、関係機関と避難場所、避難行動を協議して避難行動計画を作成する責務があったとされた。

（タイムラインを構築する根拠は、各組織の法的責務にある。）

- 消防団員、民生委員が多数犠牲になった。津波到達時の「自身の安全確保」が示されていなかった。

（ハリケーン・サンディ対応では、この徹底により防災関係者の犠牲が少なかった）

話題：「災害を克服できる防災まちづくり・防災教育」の将来像を考える

講師：小さな命の意味を考える会代表 佐藤 敏郎氏 (元石巻市立大川小学校保護者)

公助連携力向上サロンリーダー 鷺山龍太郎氏 (防災塾・だるま塾長)

コーディネーター 荏本 孝久氏 (神奈川大学教授、防災塾・だるま名誉塾長)

司会の山田さん：Zoomで参加される佐藤さんをお迎えし、厳しい被災地の様子をお聞きし、未来への論議を重ねてほしい。

開会挨拶

荏本名誉塾長：風通しの良さで課題を共有し、具体的な方向性を活発に論議願いたい。

鷺山塾長：佐藤講師から被災地の様子をZoomでお聞きし、課題を理解・検討したい。



第1部 佐藤敏郎氏講演 「あの日失われた命に意味づけをするのは、生かされた私たちの役割」

- **被災時の状況**：避難途中で津波に襲われ、次女が被災した。中学校の制服が出来た日だった。生徒74名、教師10名が犠牲になった。道路がなく船で駆け付けた時の様子を説明後、大川小学校からの動画で、構内の様子、2階の天井の3.7mの津波の跡、津波に襲われた避難通路、津波が遡上した山道等の説明があった。



- **被災時の状況**：避難途中で津波に襲われ、次女が被災した。中学校の制服が出来た日だった。生徒74名、教師10名が犠牲になった。道路がなく船で駆け付けた時の様子を説明後、大川小学校からの動画で、構内の様子、2階の天井の3.7mの津波の跡、津波に襲われた避難通路、津波が遡上した山道等の説明があった。



- **この10年の活動**：「未来を拓く」が大川小学校の合言葉で、我が子の死を無駄にしない。救えなかった命を仕方ないとせず「あの日何があったか真実を知りたい」ことと、教訓を未来に生かしてほしいと、この10年活動し、積み上げ、今ではやっと全体像が見えてきた。
 - ・校庭では57分間意思決定がされなかった。防災無線、ラジオでの津波の発生と避難の呼びかけ、保護者からの情報提供もあった。消防団や広報車が避難を呼びかけ、スクールバスも待機したが、判断と行動が伴わなかった。児童から「裏山に逃げよう」の声もあったが「勝手な行動はダメ」と引き戻された。
 - ・橋のたもとに向い動き出し、フェンスを越えた道路で8～9mの波に襲われ、子どもと先生の命を奪った。
 - ・普段なら簡単に登れる山への避難が出来なかった。危険を判断できないパニックが起きてしまった。生死が分かれる時の判断と行動が大事だ。大量の文書ではなく普段からの準備が必要だ。
 - ・学校に協力的な地域であったが、津波避難所などについて、学校と地域で話し合われる機会も、呼びかけもなかった。ハザードマップは責任逃れ、信用できない。津波は学校まで届かないとされ、浸水地域に避難所もある。
 - ・石巻市教委から新任校長研修会や初任者の研修会の講師依頼されるようになった。判決も含め、10年の活動の積み重ねと変化を感じる。現職校長には同窓生も多く、課題を理解してもらえたと思う。初任者は、娘が生きていれば同い年である。

● **未来に向けて**：防災は子どもが「ただいま」を必ず言える環境作りだ。人の為に行うもので、「恐怖を与える」「家族の悲劇がある」から「助かる未来があり、希望あるハッピーエンド」を目指している。講演活動のほか、「被災した子ども」が「被災しなかった子ども」と交流して伝承する活動をしている。

● **参考資料**・小さな命の意味を考える会 http://311chiisanainochi.org/?page_id=5



大川小学校遺構



学校の案内



津波到達点



カバン等の遺品

第2部 鷺山氏講演 ★教訓を生かした防災まちづくりはかなり 実現できる。法的整備で全国標準に

●**被災時の状況**：震災時は校長会で北綱島小学校には不在、大川小学校の事故に衝撃を受けた。なお、関東大震災では横浜で2万6千人死亡、内小学生903人が死亡、また出火してまちが焼失した。

●**この10年の活動**：・学校の危機管理マニュアルを再構築することとし、着任した

北綱島小学校と次の太尾小学校で安全確保義務を果たすため、防災教育の在り方と防災まちづくりに取り組んだ。特に小学生は生活時間の1/6が学校で、5/6が地域であり、「学校でも家庭でも生き抜く力」の育成が大事とした。保護者からも「家で地震に遭ったらどうしたらよいか？」の疑問が投げられたことが、この10年間の原点となっている。

・まず自分が防災を学び、教える立場になった。さらに教育者としての義務とは何か、共助とは何かを、普段から話し合い積み上げた。学校の横断的防災カリキュラムを構築し、職員とも共通理解を大切にしてチームとして防災を含む学校運営ができることを目指した。

・地域との「連携と参画」をテーマに地域連携に努めた。まちづくり協議会との話し合いを積み上げマンションにも声掛けて、2000人防災訓練となった。簡易な地域の防災マニュアルを学校運営協議会で共有、地域、保護者と地域の役割を決めて蓄積してきた。子どもは訓練に参加して、連携して活動する大人たちの背中を見て育つ。

●**未来に向かって**：今回の講座では「自助、共助、公助で連携できる防災教育と防災まちづくり」の連携を模索した。さらに鷺山講師から「地区防災計画」で学校が地域社会に参加して変わっていくよう、「総合的防災まちづくり構想」が提言された。



■参加者の主な意見

- ・学ぶだけの教育は子ども達が危ない。「命を守る」ことを「自分で判断し行動」できる防災教育が最も大切で「横並び主義」「マニュアル遵守」の教育の現状を改善していくことが最も大切と考える。
- ・津波は来ないと言われて被災、ハザードマップは信用できないことが教訓だ。強く世の中に訴えていくべきだ。
- ・東京には洪水マップがあるが、津波は配慮されていないことが分かった。



■まとめ 荏本コーディネーター

- ・震災後3回訪問している。今回佐藤講師の話を押聴して、体制の問題がないか、もう少し手掛けていればと思いました。一方鷲山講師は地域で子供や学校を守る体制作りの話で、参考になった。
- ・「子どものため、地域と共に」は同じ方向に向かっているが、取り組んできたことを共有し、理解し合って変えていってほしい。



■総括：今回の談義の会は、わずか100分程度で、釜石の大川小学校で起きた津波被災とこの10年、公助連携力向上サロンからは学校運営の再構築とまちづくり、さらに未来構想と複数の5つのテーマが報告され、サロン活動の行く先の骨格が提案されました。添付したアンケートに意見が出ています。今後は事前に出席者が概要を理解の上参加し、論議して吸収し、各サロンとの連携を深めることが期待されます。(記録 田中晃)

台風19号多摩川浸水被災から得られた教訓

大型台風の直撃が十分に警告されていたにもかかわらず、住民への情報伝達、水門の開閉、浸水域の自動車の移動、避難等についての対応がまちまちで、被害を拡大した。

河原氏はその原因を探究するうちに、行政、地区が整合させたタイムラインを構築していく必要性に気づいた。

Cサロンとしては、「地区防災計画」を当初テーマとしており、「タイムライン」と混同していたが、河原氏の講演を分析する中で、この2つが根拠も期限も別物であることに気づいた。

行政は「マイ・タイムライン」を提唱するが、地区の災害リスクに対応した、「地区タイムライン」が無い中で、個人がこれを考えるのは酷ではないか。

話題：「2019年台風19号浸水被害とその後から 防災まちづくりを考える」
～床上浸水住宅の現実と復旧の問題点から浸水地域・住宅の防災と課題を考える～

講師：河原 典子氏 （一社）神奈川県建築士会防災・災害対策委員会 委員長
Kappa 研築工房 河原一級建築士事務所主宰

鷺山塾長挨拶

台風で自宅が被災した経験から、地域の防災まちづくりに取り組まれている河原典子氏に講演をお願いしました。被害の実態と取組を報告いただき、被害を最小限にする防災まちづくりの未来像を共に考察したいとお願いしています。今日は、ご都合でオンラインでの講演となりました。



河原典子氏講演

■ はじめに

2019年の台風19号は超大型台風で、伊豆半島から上陸、全国で河川氾濫や土砂災害が発生しました。

川崎市多摩区菅稲田堤にある自宅が、10月12日に床上70cm浸水しました。川崎市では検証委員会を立ち上げ、住民意見や検証。結果から短期対策は実施し、中長期対策は具体化半ばの現状です。

被害市民として、市長への手紙や市民オンブズマン調査依頼など浸水原因究明と有効な対策・対応について追究し続けましたが、未だ根本的な解決には至っていません。

浸水被害から、これまで行動して経験してきたこと、想うこと、水害リスクのある地域の課題と防災まちづくりについてお話して、共有させていただきます。



■ 浸水地域と浸水原因

川崎市で河川が原因で発生した3か所の水害の一つで、多摩川の増水と大丸用水吐き口と水門からの逆流で1.2haの浸水被害が起きました。大丸用水は農業灌漑用水で、利水権は大丸用水利用農業従事者にあります。宅地化により、菅地域の雨水排水基幹施設としても利用され、稲城市と川崎市とで管理しています。



浸水は、稲城市排泥門からの多摩川流入水など水路からの越水、未管理の錆びた水門が全開であったことからの逆流、アクリル板からの漏水でした。市民から見るとあり得ないことが重なり、水路や関連施設が無関心に放置されていたことが原因でした。

*菅稲田堤3丁目被害状況：床上浸水189件、床下浸水49件、合計238件（罹災証明）

*川崎市独自の災害支援金【多摩区分】：1億410万円、30万円/件

■ 他地域に学ぶ「タイムライン」(事前防災行動計画)

大量の雨によって引き起こされる水害の経験を活かし、他地域に学びたいと思い、東京都足立区の事例を知りました。ポイントは ①自分の住む場所の被害を予測する。②浸水の恐れがある場所から警戒レベルに応じて事前に避難する。③正確な情報を素早く入手することでした。

さらに、その「タイムライン」には行政、地域、地区の連携と避難行動計画が出来ており、前日9時には本部が立ち上がり、自主避難が行われていました。

このような事例があることから、住民・地域・行政連携の避難行動ができるよう、タイムラインを確立し、命が守れるよう取り込むことが重要だと考えました。

■ 行政と地域と住民の反省点

反省点は、地域・地区の連携した避難行動計画がなかったことです。何の準備も心構えもなく、稲城市、川崎市、国、県の管理の連携不足から未管理水門から多摩川から大丸用水への流入水もあり、水門新設50年来初めての試し操作だったのか、三沢川水門全閉で三沢川水位が計画高水位よりも上がり、越水や逆流により、道路冠水時には、住民は総出で外に出ました。その後、水門が全開されて水位が低下、安堵して家に戻ってしまったのですが、どこから水が出たのか住民は判かりませんでした。引き続き水門操作が行われ、水位が上がることも知らず、その後、浸水して、住宅は準半壊、車両全損してしまいました。情報提供があれば、車両移動と家財を事前に2階に上げることができて、減災できたのにと、残念です。

■ タイムラインの作成

川崎市では「マイタイムライン」を作ることを対策に掲げているが、地区行動計画がないので、地区で行動計画を検討したいと考えています。参考になるものとして鶴見川の総合治水、加藤先生の地区防災計画をヒントに、災害に強い、防災「も」まちづくり、Bサロンで聞いた、岡山県総社市下原の西日本豪雨で犠牲者がゼロの事例などを参考にしていきたいと考えました。

■ 今後について

行政は水位の基本情報をもとに氾濫前に、マイタイムラインでの避難を勧めています。地区防災計画で、避難スイッチをどの時点で入れるかを予め決めておけばみんなが助かるという理念です。

ハザードマップにしても、皆が予め共通理解していても、行動しなければ駄目で、水門操作が始まるタイミングの情報伝達方法を決めていなければなりません。

災害リスクを知り、復旧しやすいまちになるよう、地域でも一軒一軒迄も包含した地区タイムラインによる地区の行動計画に繋がればと思います。コミュニティが豊かな地区は防災も強い！地区防災計画で「楽しく、防災もまちづくり」に今後取り組んでいきたいと願います。

地区防災計画制度とは

内閣府防災担当講演から
1. 地区で取り組む「共助」（及び「自助」）の取り組みを「地区防災計画の素案」として具体化する。
2. 作成された「地区防災計画の素案」を、市町村の「地域防災計画」に提案し、「地区」における「共助」「及び「自助」の取り組みと市町村の「公助」と連携させることができる。

第 187 回談義の会 水害後の河原講師の活動と「タイムライン」「4つの視点」で再整理
 1 地区防災の課題と今後の展望

主体	実施事項	課題と希望	今後の取組み案
菅稲田堤水害 経験者、個人 として 現状と将来への 希望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害者として <ul style="list-style-type: none"> － 原因究明と有効な対策を求めた署名提出 － 市長への手紙 ・ 市の対応に対して <ul style="list-style-type: none"> － 市民オンブズマン調査依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区防災計画を認識している関係者不在。 ・ 検討内容、進捗状況が明らかにされない。 ・ 「マイ、アワー、地区、行政」4者が繋がり、顔の見える防災まちづくりへの進化希望。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこでも、誰でも、いかようにも作れる「地区防災計画」 ・ 住民一人ひとりの防災に対する関心が高まり、継続する「地区防災計画」 ・ 参考になる事例を願う
川崎市民 菅町会町民 自主防災組織 住人としての 取組み・働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川崎市/河川課に対して <ul style="list-style-type: none"> － 説明,質問回答 対話を求め続けた ・ 川崎市検証委員会 <ul style="list-style-type: none"> － 傍聴/パブコメ ・ 菅町会に対して <ul style="list-style-type: none"> － 要望書提出 ・ 国会議員/県議/市議に <ul style="list-style-type: none"> － 問題点、要望 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 被害者/自治会員/自主防災組織の住人から市に「地区防災計画」作成の提案を試みたが <ul style="list-style-type: none"> － 突破口見えず ・ 膨大な時間がかかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「マイ、アワー、地区、行政」の総方向から、気づけたところから始めたい。 ・ 顔の見えるまちづくり ・ 地区防災計画（地区タイムライン）作成の取組み ・ 地域分裂を招かないよう、訴訟ではない対話による意見交換

2 地区防災計画の確立・「自助・共助・公助の統合」に向けて

主体	これまでの取り組み	課題	今後の取り組み案
(1) 個人・家族 (私「マイ」)	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者、菅町会の住人（自治会員）、 	<ul style="list-style-type: none"> ・市の中長期具体策住民説明会開催がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムライン準備委員会所属予定
(2) お隣近所から (私たちの「アワー」)	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩区道路公園センター（水路整備管理者）を介して説明、質問、回答、対話を求め続ける ・自宅近隣復旧改修工事 R2.3 月頃完了 	<ul style="list-style-type: none"> ・意見交換での要望事項が未実施、未改善 ・検討中の中長期具体策については <ul style="list-style-type: none"> －途中経過未公表 －R3 年 4 月以来意見交換会未実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・排水樋門浸水被害地域－川崎市への訴訟中 ・地区内希望者への情報交換－ R2 年 5 月近隣希望者のライングループ作成
(3) 町会・自主防災組織から (地区の「コミュニティ」)	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織一員 ・市議との協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水地域住民、自主防災組織代表、保育園、高齢者施設と連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・R4 年 6 月 13 地区自主防災組織で「タイムライン」作成準備委員会発足に向け人集めを始める
(4) 行政関係者	<ul style="list-style-type: none"> ・住民説明会 ・検証委員会 ・三沢川水門は国が管理・操作(操作要領一部修正、警報発信など要望) 	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗報告事実、対応に不明点があり <ul style="list-style-type: none"> －抗議修正依頼中 ・三沢水門は排水機能が無い状態が継続 ・水門操作開始の警報警告情報提供の要求 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急対策・短期対策完了 ・中長期対策の進捗状況と具体策の説明、実施予定時期の公表・意見交換希望 ・タイムライン(避難行動計画)作成→市,区,地区,住民とで共有、連携

(整理と考察 田中 晃)

Cサロン 東日本大震災・台風19号災害の課題と教訓

家庭防災への課題	「自助」「マイ・タイムライン」と言われても、地区の共通理解、「地区タイムライン」がベースになれば、個人の判断は困難。
地域防災の課題	地区内に存在する、自治会、学校、事業所、民生委員、消防団等の警戒レベルに応じた行動の共通理解ができていなければ、本当の災害時にとれる行動に不一致や心理的制約がかかり、被害拡大。 地区内に様々な主体が混在する中で「地区タイムライン」を統合するシステムの確立が必要。
自治体防災の課題	災害対策基本法による「地域防災計画」はあるが、「時系列の事前防災行動計画」という視点での再構築が必要であることが防災基本計画改訂においても明確化。 「自治体タイムライン」に整合させた「地区タイムライン」構築の支援が必要。
国政等の課題	1 内閣府推進「地区防災計画」と国交省推進「タイムライン」との関係が不明。 2 「気候非常事態宣言」等の一般化

Cサロンからの提言案

家庭防災への提言	1 地域のリスクを知る。(マイTLの前に「地区TL」) (2) 公助TL→共助TL→自助TL+業助TLの連携 を。
地域防災への提言・支援	(1) 「地区タイムライン」「統合ツール」の開発! (Googleフォーム利用)によるタイムライン作成研修。 実践 12月10日大倉山地区連合町会で実施 気づき→参画(TLツール)→行動→減災
自治体防災への提言	(1)「防災基本計画」6月改定による、あらゆる災害への 行政等のタイムラインの実質化。 (二宮町TLの例)
国政等の理解	1 内閣府推進「地区防災計画」と国交省推進「タイムライン」との整合。 2 「気候非常事態宣言」

(図表12)「タイムライン」「マイ・タイムライン」「地区防災計画制度」等の比較一覧(鷲山案 2022.9.12)

用語	A タイムライン	B マイ・タイムライン	C コミュニティ・タイムライン	D 地区防災計画
根拠・関連法令・ガイドライン等	防災基本計画「タイムライン」(2022年6月改正) 「タイムライン策定・活用指針(初版)」国交省	国交省「マイ・タイムラインガイド」	国交省「マイ・タイムラインガイド」内のコラムで三重県紀宝町の取り組みとして紹介	災害対策基本法 1959年制定 地区防災計画制度 2013年改訂
教訓となった災害	2012年国交省「米国ハリケーン・サンディ調査団」	日本2015年2019年台風15・19号等?	東日本大震災・西日本豪雨など(松尾氏)	日本1959年伊勢湾台風で策定・東日本大震災等で改正
イメージ	 <p>タイムライン防災は、「オーケストラ」</p> <p>オーケストラのように、さまざまな演奏者(防災機関)が、同じ譜面(タイムライン)で、指揮者(意思決定者)のもと、美しい協奏(防災行動)が出来れば、命を守ることに繋がる。 松尾</p> <p>松尾一郎氏「最近の水害、その課題」</p>	 <p>横浜市「マイタイムライン作成シート」から</p>	 <p>松尾一郎「タイムライン防災」は、地域防災を変えたから</p>	 <p>内閣府「地区防災計画ガイドライン」から</p>
推進機関	国土交通省	国土交通省?	国土交通省?	内閣府
実践自治体	東京都荒川流域他 三重県紀宝町	川崎市・横浜市 他	足立区 三重県紀宝町	全国各地 県内では進捗乏しい
概念	(行政)各機関が取り組む防災行動をまとめたタイムラインを策定し、各地域において防災行動を迅速に実施する等、災害対応力の向上を目指す。(国交省)	自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助。(国交省)	対象地域の町会・自治会の方々が「取るべき行動」「それに伴う課題」等について話し合っていたワークショップを開催し、コミュニティタイムライン策定支援。(足立区)	地区居住者等は、共同して、市町村防災会議に対し、市町村地域防災計画に地区防災計画を定めることを提案することができる。(災害対策基本法)

(解説) 「タイムライン」「マイタイムライン」「地区タイムライン」「地区防災計画制度」の比較

2022年9月 塾長 鷺山龍太郎

1 国の「防災基本計画」に「タイムライン」が位置づけられる (図表1・2)

防災基本計画 (令和4年6月 中央防災会議)

第1章 災害予防.

第6節 迅速かつ円滑な災害応急対策, 災害復旧・復興への備え P21

(略)○(新設)国〔国土交通省等〕, 地方公共団体等の防災関係機関は, 他の関係機関と連携の上, 災害時に発生する状況を予め想定し, 各機関が実施する災害対応を時系列で整理した防災行動計画(タイムライン)を作成するよう努めるものとする。また, 災害対応の検証等を踏まえ, 必要に応じて同計画の見直しを行うとともに, 平時から訓練や研修等を実施し, 同計画の効果的な運用に努めるものとする。

(略)

図表1 防災基本計画(令和4年6月 中央防災会議)

大規模地震・津波災害応急対策対処方針 (応対方針) の概要

(平成29年12月21日中央防災会議幹事会決定、令和4年6月10日最終改定)

- 大規模地震・津波災害応急対策対処方針は、防災基本計画を踏まえ、大規模地震・津波災害が発生した際に、各機関がとるべき行動内容等を定めるもの。(大規模地震以外の災害についても必要に応じて準用)
- 災害応急対策の目安として、タイムライン(時系列の行動計画表)※を定め、これを踏まえ、政府が実施する応急対策活動と防災関係機関の役割を示している。

※タイムラインでは、人命救助のために重要な72時間を考慮した警察、消防、自衛隊等の各部隊における被災地の救助・救急、消火活動に加え、DMATの派遣等の医療活動、プッシュ型支援による物資調達、被災者の生活支援、インフラの復旧等までの、概ね大規模地震発生後1か月間に行う災害応急対策活動に重点を置いて記載。

図表2 一部引用: [大規模地震・津波災害応急対策対処方針\(概要\)](#) (令和4年6月)

地震災害にも「タイムライン」(時系列の行動計画表)を定めることを示しています。

参考資料

ニュージャージー州 ハリケーン用タイムライン事前行動計画

◆タイムラインとは、防災に関わる組織が連携し、事前調整を図り、ハリケーンに対するそれぞれの役割（ESF）や対応行動を定めたもの。

（主な要素）

■何時→

上陸時刻±HOUR

■誰が→

機関または組織

■何を→

防災行動

TIME LINE タイムライン	ACTIVITY （防災行動）	ESF （緊急支援機能）
H-120 （上陸120時間前）	各機関の防災行動レベルを2へ	ALL ESF
H-96	避難所の計画と準備	ESF #6、ESF #7、 etc
H-96	住民避難の計画と準備	ESF #6、 etc
H-72	州知事による緊急事態宣言	ESF #5 etc
H-48	防災行動レベルを3へ格上げ	ALL ESF
H-48	郡と州の避難所準備	ESF #1、ESF #6
H-36	車による（一方通行）避難の準備	ESF #1、ESF #6
H-36	州知事 避難勧告 発表	ESF #5 etc
H-36	郡と州の避難所開設	ESF #6 etc
H-12	車による（一方通行）避難の開始	ESF #1、ESF #6 etc
H-24	公共輸送機関の停止	ESF #6、ESF #1 etc
H-12	緊急退避	ESF #5 etc
H-0 （0 hour）	警察・消防団は、活動停止、避難	ESF #4、ESF #5 etc

◆州知事は、タイムライン通りに上陸36時間前に避難勧告を発表した。
この早めの対応が功を奏す。

図表3 引用:緊急メッセージ添付資料3 先を見越した水害対応(事前行動計画)について(PDF:987.37KB)

米国版タイムラインのイメージが分かるH-0（ゼロアワー：災害発生では警察消防等も避難が明示）

大規模地震・津波災害応急対策対処方針（応対方針）の概要

（平成29年12月21日中央防災会議幹事会決定、令和4年6月10日最終改定）

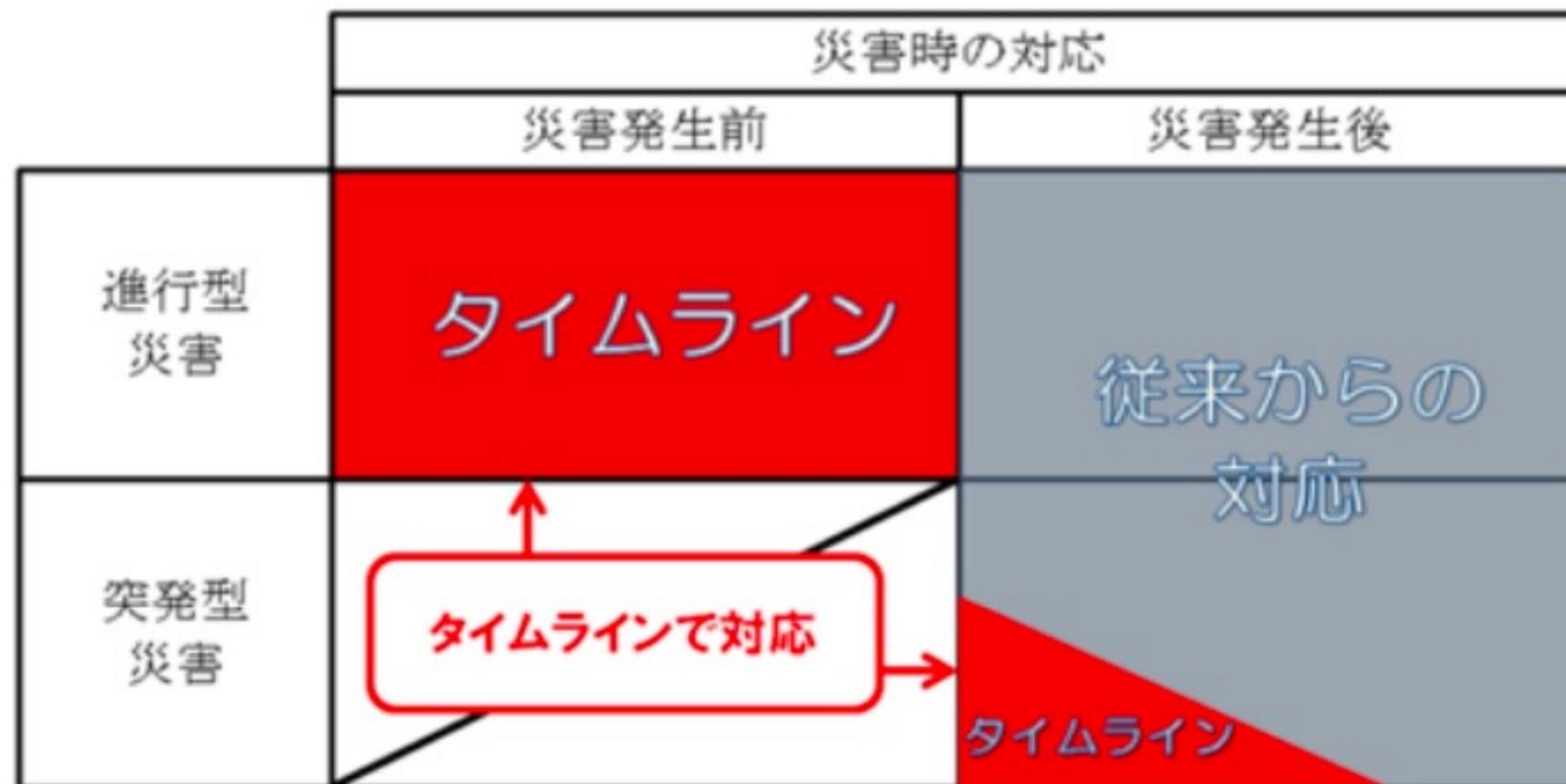
- 大規模地震・津波災害応急対策対処方針は、防災基本計画を踏まえ、大規模地震・津波災害が発生した際に、各機関がとるべき行動内容等を定めるもの。（大規模地震以外の災害についても必要に応じて準用）
- 災害応急対策の目安として、タイムライン（時系列の行動計画表）※を定め、これを踏まえ、政府が実施する応急対策活動と防災関係機関の役割を示している。

※タイムラインでは、人命救助のために重要な72時間を考慮した警察、消防、自衛隊等の各部隊における被災地の救助・救急、消火活動に加え、DMATの派遣等の医療活動、プッシュ型支援による物資調達、被災者の生活支援、インフラの復旧等までの、概ね大規模地震発生後1か月間に行う災害応急対策活動に重点を置いて記載。

図表2 一部引用：[大規模地震・津波災害応急対策対処方針（概要）（令和4年6月）](#)

地震災害にも「タイムライン」（時系列の行動計画表）を定めることを示しています。

図1 災害対応におけるタイムラインの位置づけ



大規模水災害に関するタイムライン（防災行動計画）の流れ



※タイムラインに関わる関係機関、防災行動は多岐にわたりますが、本イメージ図は国土交通省の対応や広域避難と交通サービスに着目して整理したものであり、時間軸の設定、対応の実施などにあたっては、今後の検討、調整が必要になります。また、赤字は特に対応強化の必要と考えられる項目です。

図表5 引用：タイムライン(防災行動計画)策定・活用指針（初版）2016年

「国交省タイムラインガイドライン」に基づいて作成されていると思われる例（Cサロン会員の地域）



台風や前線に伴う 二宮町タイムライン（防災行動計画）

目安	警戒レベル	気象情報等	二宮町	地区(自主防災組織)	住民
72時間前					
48時間前	警戒レベル1 早期注意情報(気象庁)	・早期注意情報 (数十年に一度の大型台風)	【事前警戒】 ・今後の気象情報の情報収集 ・今後の学校やイベントの有無の確認 ・公共施設の利用確認等	<ul style="list-style-type: none"> 地域自主防災組織において、災害への心構えを高める。 気象情報等の確認を行う。 地域役員の連絡体制の確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害への心構えを高める。 気象情報等の確認を行う。 自宅の風雨対策に備える。 (土のうや板等による浸水、風対策、側溝、排水溝等の清掃) 二宮町の防災情報メール等の登録を下記にアクセスして行う。 ▶「QRコード」又は 「bousai.kngw-ninomiya-town@raidan2.ktaiwork.jp」
24時間前	警戒レベル2 注意報(気象庁)	・洪水注意報 ・大雨注意報 ・高潮注意報	【災害警戒本部設置】 ・今後の気象情報の情報収集 ・台風等接近に伴う住民周知(防災行政無線や防災情報メール等) ・広域避難所(福祉避難所)及び地域の避難所開設等の検討 ・ホームページ等で災害緊急情報の集約	<ul style="list-style-type: none"> 地域での避難所開設要請に備え、人員等の確認を行う。 避難行動要支援者名簿等の把握及び確認を行う。 (民生委員等の協力で独居高齢者や障がい者など避難に支援が必要な対象者の確認を行う) 	<ul style="list-style-type: none"> テレビ、ラジオ、インターネット等による気象情報や計画運休等の確認を行う。 避難に備え、ハザードマップ等で自分や家族の避難行動の確認を行う。 ★川や海岸の近く、自宅裏に山を抱えているなど自分の住んでいるところが避難の必要があるかどうかを確認を行う。 避難に備え、親戚や知人宅の連絡先の確認や町の避難所の確認を行う。 水や食料、防寒具、薬やミルク等の非常持出品の準備を行う。 避難する際のペットの受け入れ体制や駐車場の状況確認を行う。 防災行政無線やホームページ等で自主避難者用の避難所開設の確認を行う。 避難するのに時間がかかる高齢者や障がい者など要配慮者及び支援者は、避難の検討及び自主避難を行う。
12時間前			<ul style="list-style-type: none"> 警戒レベル3又は4が見込まれる場合、自主避難者に備え、広域避難所の開設(防災行政無線、防災情報メール等) (●二宮高校 ●二宮中学校 ●二宮小学校 ●町立体育館) 	<ul style="list-style-type: none"> 町から地区長、民生委員等は、自主避難者用の避難所開設の連絡を受ける。 	
4時間前	警戒レベル3 高齢者等避難	・大雨警報(土砂災害) ・大雨警報(浸水害) ・洪水警報	【災害対策本部設置】 ◆高齢者等避難発令 (避難に時間を要する高齢者や障がい者の避難を促す) (防災行政無線、防災情報メール、緊急速報・エリアメール等で周知) ・広域避難所の開設及び運営(防災行政無線、防災情報メール等) (●二宮高校 ●二宮中学校 ●二宮小学校 ●町立体育館) ・地域での避難所開設を要請 ・避難状況により福祉避難所(保健センター)の開設を検討	<ul style="list-style-type: none"> 町の避難所開設要請に対する可否の確認を行う。 地域での避難所運営及び避難者の受入を行う。 避難行動要支援者の避難支援 	<ul style="list-style-type: none"> 防災行政無線やホームページ等で広域避難所及び地域の避難所開設状況の確認を行う。 避難するのに時間がかかる高齢者や障がい者など要配慮者及び支援者は、親戚や知人宅、避難所等への避難を開始する。 その他の人は、避難の準備を始め、自発的に親戚や知人宅、避難所等への避難を開始する。 避難行動をする際には、隣近所への声掛け等も心掛ける。
2時間前	警戒レベル4 避難指示	・土砂災害警戒情報 ・洪水警報(非常に危険) ・高潮警報	【災害対策本部設置】 ◆避難指示発令 (災害発生が極めて高い状況の際に緊急的又は重ねて避難行動を促す) (防災行政無線、防災情報メール、緊急速報・エリアメール等で周知) ・広域避難所の運営(防災行政無線、防災情報メール等) (●二宮高校 ●二宮中学校 ●二宮小学校 ●町立体育館)	<ul style="list-style-type: none"> 地域での避難所運営及び避難者の受入を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水、土砂災害等が予想される地域については、町の広域避難所及び地域の避難所に避難を開始する。 (夜間や豪雨等、立ち退き避難が、かえって危険な場合は、自宅やその時の建物内の安全な部屋に移動)
災害発生	警戒レベル5 緊急安全確保	・大雨特別警報(浸水害) ・大雨特別警戒(土砂災害)	現に人命にかかわる被害が確認された場合、自衛隊等へ応援要請		<ul style="list-style-type: none"> 災害発生 既に災害が発生している状況であり、命を守るための最善の行動をとる。

※ 警戒レベル5については、町が災害発生を確実に把握できるものではないため、災害が発生した場合でも、必ず発令されるものではないことに留意してください。

※このタイムラインは、大型台風等による風水害(浸水や土砂災害等)を想定し、町が開設する避難所も4か所(●二宮高校 ●二宮中学校 ●二宮小学校 ●町立体育館)となります。

◆ 大地震発生時の避難所は、風水害の避難所とは異なり、町内7か所(●二宮高校 ●二宮中学校 ●二宮西中学校 ●二宮小学校 ●山西小学校 ●一色小学校 ●町立体育館)となります。

※防災行政無線の内容は、
「0463-72-0039」で確認できます。

足立区が松尾一郎氏を「総合防災行政アドバイザー」として、「コミュニティ・タイムライン」構築を支援

保存版

コミュニティタイムライン

で命を守る

台風接近の3日前からやるべきこと

3日前

縁故等避難※1の準備

2日前

縁故等避難※1の開始

1日前

避難に時間がかかる人は避難開始

12時間前

風雨が強くなる前に避難開始

6時間前～

避難の徹底
避難の継続

江南連絡協議会

小台町会 宮城町会 宮城第三団地自治会
尾久橋スカイハイツ自治会 ラ・セーヌ小台自治会
ライオンズマンション荒川遊園アクアステージ自治会

各町会・自治会の
やるべき
防災行動は
中面へ

江南連絡協議会では、この地域から水害時の逃げ遅れによる犠牲をゼロにするため、小台・宮城地区の町会・自治会ごとに**コミュニティタイムライン**※2を策定しました。各家庭や地域で事前に出来る防災行動を確認し、水害への備えをお願いします。

※1 浸水の恐れがない所に住む家族、親戚、知人などの家やホテルなどへ避難すること
 ※2 取るべき行動や避難のタイミングについて「いつ・誰が・何をするか」を定めた行動計画

近年、日本各地で千年に一度の雨量による水害が毎年のように発生しており、足立区においても決して他人事ではありません。“いつ・誰が・何をするか”を事前にルール化し、それを地域で使い続けるとともに、必要に応じて改善していくことで、より現実的で“有効なコミュニティタイムライン”にブラッシュアップできます。

◆足立区総合防災行政アドバイザー
◆東京大学大学院 情報学環 総合防災情報研究センター 客員教授

松尾 一郎

お問合せ先

足立区 危機管理部 総合防災対策室 災害対策課
電話：03-3880-5836

小台・宮城地区関連の防災情報

皆さんに確認していただきたい防災情報をまとめました。 ※ 画像はイメージ図です。
QRコードやURLを入力すればすぐに確認することができます。ぜひご活用ください。

台風接近2～3日前

① 気象庁：台風情報

台風の予想進路や強さなどがわかります。進路や暴風域の有無を確認してください。

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#5/34.5/137/&elem=root&typhoon=all&contents=typhoon>

② 気象庁：早期注意情報（警報級の可能性）

いつごろ警報が発表される可能性があるか図で表した資料です。警戒すべき時間帯を確認し、避難準備を参考にしてください。

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#lang=ja&area_type=offices&area_code=130000

台風接近1日前

③ 気象庁：警報・注意報（今後の推移）

現象が注意報級・警報級、特別警報級となると予想される時間帯が示されます。避難開始時期の検討に活用してください。

気象庁		2024年10月10日 18時												警報・注意報		
		10時	12時	15時	18時	21時	0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時			
大雨	警報	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	大雨警報
暴風	警報	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	暴風警報
高潮	警報	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	高潮警報
土砂災害	警報	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	注意	土砂災害警報

■大雨特別警報 ■注意報(高潮以外)・高潮注意報(*2)
 ■特別警報(大雨以外)高潮警報・土砂災害警戒情報 ■予想範囲外
 ■警報(高潮以外)・高潮注意報(*1) *1高潮警報に切り替える可能性が高い *2上記以外の高潮注意報

https://www.jma.go.jp/bosai/warning/#lang=ja&area_type=offices&area_code=130000

雨が降り始めたら

④ 気象庁：キキル（危険度分布）

洪水害や浸水害などの危険度がどれくらい高まっているかが色分けされて表示される情報です。赤や紫色の表示が出たら、濃い紫色になる前に、安全確保の行動をとってください。特に浸水キキルと洪水キキルで身の回りの危険度確かめてください。

https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#5/34.5/137/&elem=all&contents=warning_level

⑤ 気象庁：雨雲の動き・今後の雨

どれくらいの雨が降っているか、どこに雨雲が向かうかなど、一目見てわかる情報です。

<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/#zoom:9/lat:35.695225/lon:139.779053/colordepth:deep/elements:liden&hrpns>

川の水位

⑥ 荒川下流河川事務所：水位・雨量・ライブ映像

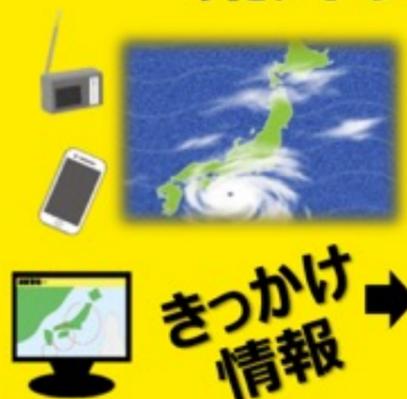
荒川の水位が上流から下流まで一覧で表示されています。水位観測所等をクリックすると、その地点の情報が表示されます。

河川の水位と避難行動

避難レベル⑤ 浸水発生・切迫 緊急安全確保
 避難レベル④ 浸水発生中 避難指示
 避難レベル③ 浸水発生中 高齢者等避難
 避難レベル② 浸水発生中 大雨・洪水・高潮注意報
 避難レベル① 浸水発生中
 ※避難などは対象地域の方のみ

<https://www.ktr.mlit.go.jp/arage/arage00079.html>

荒川の氾濫に備えた 小台・宮城



ステージ1 3日前 緑故等避難の準備

ステージ2 2日前 緑故等避難の開始

- ・ 台風予報
- ・ 早期注意情報
- ・ テレビなどの台風情報で台風の首都圏への接近が予想されている
- ・ 台風予報
- ・ 早期注意情報
- ・ 気象庁が緊急会見する等台風により首都圏への重大な影響が予想されている

小台町会

- 支援が必要な方への支援準備
- 町会の役員が分担して電話・訪問（班長）を行う
- 避難準備を呼びかける回覧
- 要支援者へ訪問(担当する係を決めて対応)
- 町会役員がハンドマイクを使って町内へ避難準備の声かけ

宮城町会

- 会長が声かけ責任者決定
- 緊急の部長会などを開く
- 高齢者への早い声かけを行う
- 小・中学校避難所の開門時間等を区に確認
- 高層建物へ避難要請を行う
- 青バトで避難準備の声かけ

宮城第三団地自治会

- 身障者・高齢者の確認
- 居住者名簿の確認
- 団地内の一斉放送で今後の注意を呼びかける
- 放送で分散避難の呼びかけ
- 避難場所(空き住戸)の準備
- 各階班長が1軒ずつ声かけを始める

尾久橋スカイハイツ自治会

- 4F以上の家庭に3F以下の住民の受入可否を確認
- 自治会、管理組合役員が避難情報を住民に伝達
- 自治会、管理組合役員が支援が必要な住民を確認
- 要支援者には近所の方々が避難の呼びかけを伝える
- 災害用備蓄品を階上に運ぶ
- 4～11Fの方で受け入れてくれる方へ再度確認を入れる

ラ・セーヌ小台自治会

- 避難可能な場所を放送
- 役員は要支援者名簿確認
- 役員は要支援者に連絡し、避難方法を改めて確認
- 住民に対して自治会から現状を伝え、今後避難の可能性を伝える
- 住民に対して自治会から避難場所を確認するよう呼びかける

ライオンズマンション荒川遊園アクアステージ自治会

- 自治会からの注意喚起・ポスティング
- 居住者名簿を確認する
- 防災器具の取り扱い訓練
- 回覧板で情報を回す。
- 町外・外部からの情報を確認する
- マンション内の連絡手段を確保(トランシーバー等を活用)

地区コミュニティタイムライン

※ 内容は抜粋です。

ステージ3 1日前 避難に時間がかかる人は避難開始

ステージ4 12時間前 風雨が強くなる前に全員が避難開始

ステージ5 6時間前 0時間 避難先から離れない・戻らないを徹底

- ・ 避難所の開設予告
- ・ 警戒レベル3「高齢者等避難」
- ・ 断続的に雨が降る
- ・ 計画運休が予告される
- ・ 大雨警報
- ・ 洪水警報
- ・ 氾濫注意情報
- ・ 警戒レベル4「避難指示」
- ・ 次第に風雨が強くなる
- ・ 計画運休が始まる
- ・ 氾濫警戒情報
- ・ 氾濫危険情報
- ・ 氾濫発生情報
- ・ 警戒レベル5「緊急安全確保」
- ・ 台風最接近
- ・ 荒川の水位が急激に上昇
- ・ 台風が過ぎても水位上昇が継続

- 会長が役員へ避難支援開始を各ブロックに連絡
- 理事・民生委員・町会・消防団で協力して避難支援実施
- 単身高齢世帯の向こう3軒両隣に町会役員が声かけ
- 役員は避難遅れの人がいなければ電話確認する
- 避難済みが最終確認する

- 各戸へ訪問・声かけ(班長)
- 町会の役員が部長・班長に訪問・声かけの協力を求める
- 避難場所の下見・避難物資の確認を行う
- 未避難者の確認
- 垂直避難を考えて行動
- 近隣マンション等へ食料を持って避難
- 避難所運営スタッフの確保・掘り起こし(医師・看護師などの資格のある人材、個人申告)

- 空き住戸へ不自由な方を早めに避難案内
- 団地内に避難の放送
- 避難に必要な車いす等準備
- 避難者の確認
- 在住者の避難
- 避難遅れの人がいなければ団地内へ一斉放送で呼びかける
- 在住者の確認

- 役員は要支援者に避難開始するようハンドマイク等で呼びかけを行う
- 高齢の避難希望者は通路側の窓枠に赤い布等で合図してもらう
- 3F以下の人は避難開始
- 避難遅れの人がいなければマイクでの呼びかけ
- ハンドマイクで避難遅れの方々を確認する

- 避難場所を伝える
- 要支援者に対し、高層階へ避難するよう声かけする
- 要支援者の避難確認
- 高層階への避難指示(低層階で残っている人向け)
- 避難誘導を実施
- 避難場所運営の準備
- 避難誘導
- 避難者の支援【可能な場合】

- 各戸へ避難開始の連絡
- 自治会は普段からつながりのある消防団と連絡を取る
- 要支援者に対し、避難するよう声かけする
- 区・都・気象情報の確認
- 各フロアで大雨情報をインターホンで連絡
- 近隣住民の避難に備えマンション1階の扉を開ける
- 建物の被害点検
- 高層階へ避難する

未来の 「鶴見川 水害」に 向き合う

- 落合努先生が9月談義の会で、「マルチハザード解析でワースト」にリストアップした地区に、「太尾小学区」（大倉山地区・鷺山校長在任2013～2014）があり、洪水リスクは横浜でも最悪である。
- Dサロン談義の会、エクステンション講座で学んだように、「鶴見川総合治水対策」の効果は台風19号に持ちこたえた。
- しかし、洪水リスクはあり、大倉山地区連合町会から鷺山に港北区総務課防災キャラバンとして講演と支援の要請があった。
- 2021年に要請があったが、コロナで3度延期となり、2022年12月10日に実施を迎えた。
- この間、Cサロンでも、IT（Googleフォーム）を使った地区ライムライン統合ツールをテスト。大倉山での実践した。
- 実践した結果を12月13日Cサロンに報告した。

(4) 港北区大倉山地区 洪水浸水想定区域(想定最大規模)



港北区洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域 (想定最大規模※)

鶴見川水系河川：鶴見川、矢上川、早淵川、烏山川、砂田川、大熊川

この洪水ハザードマップは、鶴見川水系等の河川の氾濫が予想される場合や実際に氾濫した場合に、浸水が想定される区域の皆さんに速やかに避難していただくために作成したものです。

※想定最大規模とは「想定し得る最大規模の降雨」による氾濫を前提として予測したものです。



洪水浸水想定区域 (想定最大規模) はどうやって決めたの？

こちらの面の洪水浸水想定区域^{※1}の範囲やその深さは、想定し得る最大規模の降雨 (2日間で792mm) を前提として、川の水があふれた場合や堤防が壊れた場合をシミュレーションにより予測したものです。

【参考】横浜地方気象台では、平成26年10月5日に24時間で約307mmの降雨を観測しています。^{※2}

なお、この洪水浸水想定区域は、前提となる降雨を超えるような大雨、下水道等からの浸水、水路の氾濫等を考慮していませんので、着色されていない区域でも浸水が発生する場合や、実際の浸水深と異なる場合があります。

- ※1 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所ホームページ (https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin_index070.html)
- ※2 横浜地方気象台ホームページ (<https://www.jma-net.go.jp/yokohama/>)

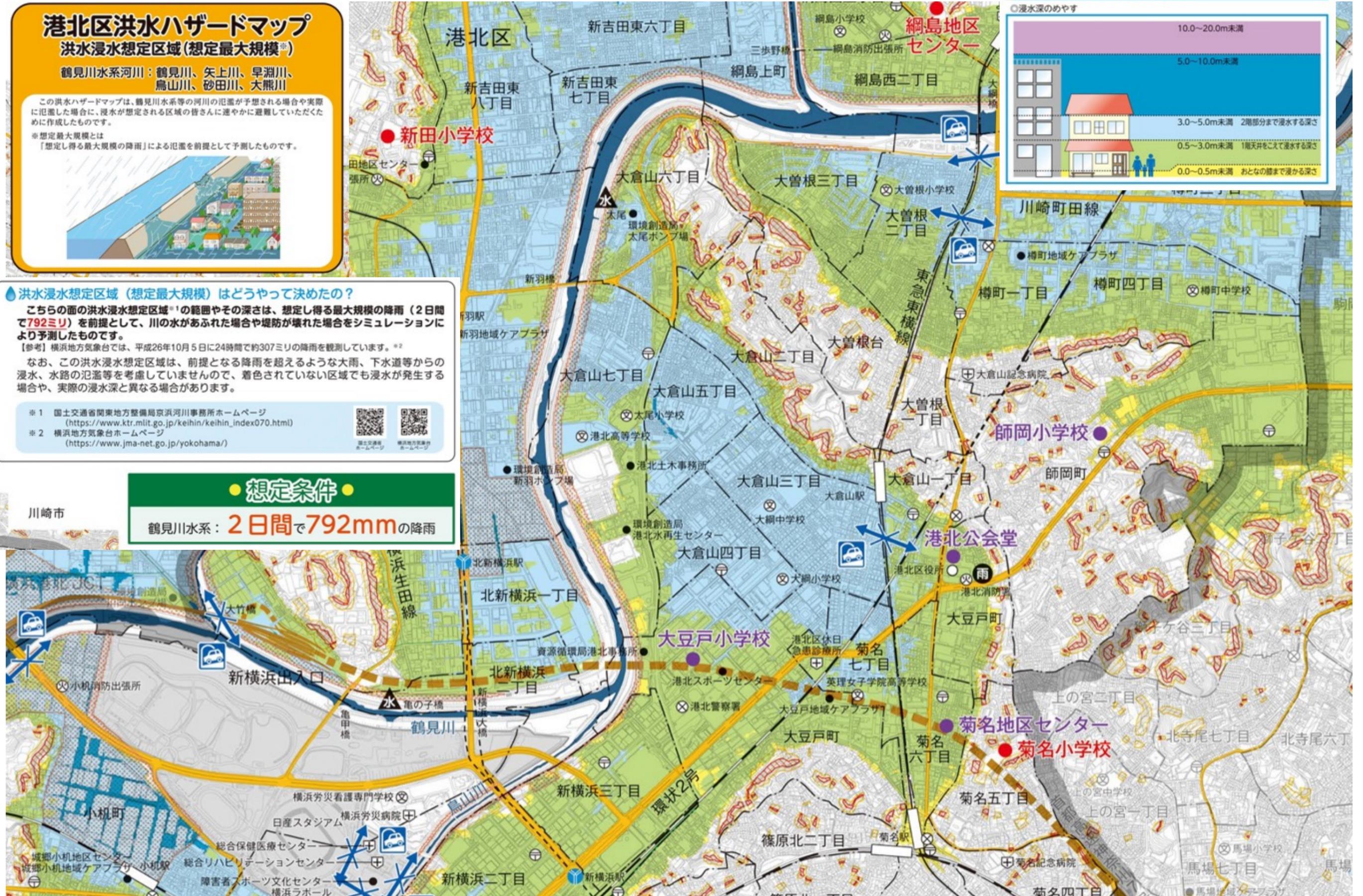
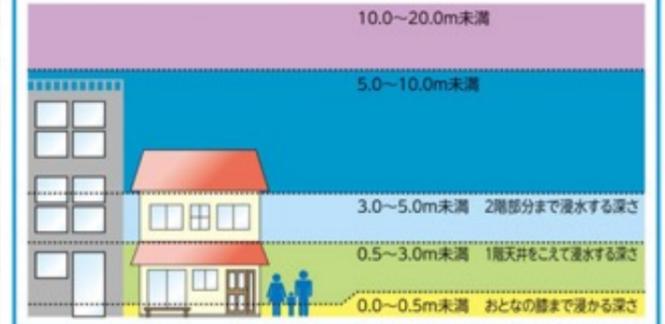


想定条件

鶴見川水系：2日間で792mmの降雨

凡例 (Explanatory Notes)

○浸水深のめやす



暴れ川の記憶

「暴れ川」と呼ばれる、国中に氾濫をもたらす大規模な洪水は、
多くは昭和33年7月の台風によるものであります。
当時の記録映像と当時の写真の貴重な資料をアーカイブとして公開いたします。



昭和33年 狩野川台風の大被害

港北区役所が開設する避難場所について

- ◇開設する避難場所は、横浜市域で予想される降雨量などを踏まえて決定するため、避難する際は、必ず、市・区のホームページやテレビ(データ放送)等で開設されている避難場所を確認してください。
- ◇避難場所は、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域等に居住する方に避難していただくため、開設します。洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域以外で堅牢な建物に居住する方は、ご自宅に留まり、最新の情報を確認してください。
- ◇【警戒レベル5】緊急安全確保の対象区域となった場合や自宅周辺が浸水し始めている場合は、避難場所へ移動せず、自宅の上階や近隣の高いところに直ちに避難してください。

避難場所（洪水・高潮）候補地一覧

- 2日間の雨量が792mm程度(想定最大規模)と予想される場合、開設する避難場所は次のとおりです。

	避難場所
指定緊急避難場所	日吉台小学校、港北小学校、菊名小学校、新田小学校、高田中学校、篠原小学校、下田小学校、篠原西小学校、高田東小学校、新羽小学校、小机小学校、城郷中学校
自主避難場所	綱島地区センター、篠原地区センター、日吉地区センター

- 2日間の雨量が405mm程度(計画規模)と予想される場合は、上記の避難場所に加え、次の避難場所を開設する可能性があります。

	避難場所
指定緊急避難場所	城郷小学校、矢上小学校、駒林小学校、師岡小学校、大豆戸小学校
自主避難場所	港北公会堂、菊名地区センター

▼2日間で400mm以上の降雨がある場合、港北区内では広範囲での浸水が予想されており、避難場所の数が圧倒的に不足することが想定されます。2日間で400mm以上の降雨が予想される場合には、安全な場所にある親戚、知人の家、宿泊施設等への避難を検討してください。



港北区内の指定緊急避難場所には、このような看板が設置されています。

開設される避難場所は、予想される降雨量によって異なりますので、必ず複数の避難場所を日頃から確認しておきましょう。



避難場所の開設状況は、港北区のホームページなどで確認してください。横浜市港北区役所 045-540-2206

(図表13) メイツ大森西 風水害コミュニティ・タイムライン

【2022年4月現在】メイツ大森西管理組合理事会・防災委員会

警戒レベル		1	2	3	4	5	
警戒レベル・情報・発令	気象庁等	大雨	早期注意情報(警報級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報 大雨特別警報	
		氾濫 キキル危険度分布		氾濫注意情報 注意	氾濫警戒情報 警戒	氾濫危険情報 非常に危険 極めて危険	
	大田区	状況	「今後気象状況悪化のおそれ」	「気象状況悪化」	「災害のおそれあり」	「災害のおそれ高い」	「災害発生又は切迫」
		発令 「居住者等がとるべき行動」	「災害への心構えを高める」	「自らの避難行動を確認」	「危険な場所から高齢者等は避難」	「避難指示」 「危険な場所から全員避難」	「命の危険 直ちに安全確保」※必ず発令される情報ではない。
	居住者マイ・タイムライン	浸水域(1階)の高齢者等	最新情報に注意	浸水域、急避難場所や避難経路、避難タイミング等を確認 持ち出し袋準備	高齢者等避難開始	避難完了	垂直避難等 少しでも命の助かる行動 (最終的には住民自らの判断)
浸水域(1階)の居住者等		自主的な避難先(親戚・知人宅やホテル・旅館等)の調整		「自主避難」開始 タイミング			
(1階の)ペット		縁故避難先等検討 同行避難場所確保		できれば縁故避難 ケージに入れ開校小学校避難所へ同行避難			
2階以上居住者		情報収集	停電・トイレ対策 水・食料等備蓄確認		室内安全確保 停電対策・トイレ対策 浸水階住人の保護に協力		
マンション・コミュニティ・タイムライン	理事会・防災班	浸水想定階住民に呼びかけ	HP・ポスターで警戒呼びかけ 強風対策	対策本部開設＝理事長・副理事長宅 浸水想定階居住者に声かけ	浸水階住人を階上で保護 可能なら近隣住民保護	対策本部＝集会所・管理室 「浸水開始」を館内放送伝達 (住民に協力呼びかけ) 自動ドア開放 救出活動 浸水対策	
	地上P自家用車 電動自転車	浸水域外のP確保	浸水域外のP確保	地上P自家用車移動開始 (各自の自己責任) 電動自転車各自室内避難可			
	タワーパーキング自家用車	操作盤裏に、空き番号を貼り付け (管理人・副理事長)		空き暗証番号(操作盤扉内側に貼り付け)で空のトレイを呼び出し、自分の車を階上へ			
	管理人 管理会社	台風等警戒のポスター掲示		浸水想定階居住者に声かけ	高齢者等避難の確認と対策本部と情報共有	浸水対策 管理室貴重品・重要書類避難	

鷺山自宅マンションで策定し、HP公開している地区タイムライン [メイツ大森西管理組合HP](#)

(図表14) ○○連合町会地区 風水害タイムライン(試案)

警戒レベル		1	2	3	4	5	
警戒レベル・情報・発令	気象庁等	大雨 早期注意情報(警報級の可能性)	大雨注意報 洪水注意報	大雨警報 洪水警報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報	
	〇〇市長	状況 「今後気象状況悪化のおそれ」	「気象状況悪化」	「災害のおそれあり」	「災害のおそれ高い」	「災害発生又は切迫」	
	発令 「居住者等がとるべき行動」	「災害への心構えを高める」	「自らの避難行動を確認」	「危険な場所から高齢者等は避難」	「避難指示」 「危険な場所から全員避難」	「命の危険 直ちに安全確保!」※必ず発令される情報ではない。	
	〇〇地区「コミュニティ」タイムライン	浸水域の高齢者等	最新情報に注意	浸水域、急避難場所や避難経路、避難タイミング等を確認	高齢者等避難開始	避難完了	垂直避難等少しでも命の助かる行動(最終的には住民自らの判断)
	浸水域の居住者等	自主的な避難先(親戚・知人宅やホテル・旅館等)の調整	持ち出し袋準備1階物資階上へ	「自主避難」開始タイミング高齢者等へ避難声かけ・避難支援	「立退き避難」安全確保可なら「屋内安全確保」		
ペット	縁故避難等 同行避難場所確保 フード、必要物資順準備		ケージに入れ避難所へ同行避難		安全確保		
自家用車	浸水域外のP確保		浸水域自家用車の域外避難開始		自身安全確保		
〇〇地区「コミュニティ」タイムライン	〇〇連合町会 災害対策本部	連絡体制確認	高齢者避難準備呼びかけ 避難の方針を伝達(SNS等)	連合町会災害対策本部(A小学校)設置 高齢者避難呼びかけ	各自治会等にSNS等で呼びかけ 災害状況把握	垂直避難等呼びかけ 避難所運営支援	
	各自治会	連絡体制確認	高齢者避難支援の準備	自治会災害対策本部設置	避難声かけ 避難確認	垂直避難等緊急安全確保	
	各マンション 理事会・自治会	浸水想定階住民に呼びかけ 浸水深度上にある集会室は避難所に開放準備・電気室等水防対策		浸水想定階の高齢者等避難確認 自家用車避難	浸水想定階居住者の避難・保護体制確認 声かけ	浸水階住人を階上で保護 可能なら近隣住民保護	
	消防団等	警戒・準備		司令により巡回、または水防団として水防活動		避難 自身安全確保	
	民生委員等	区域の高齢者等把握	避難準備声かけ	声かけ 自治会・連合町内会と逃げ遅れた高齢者等の情報共有		避難 自身安全確保	
	A小学校 B小学校 C中学校	児童生徒・保護者への防災教育 休校の判断についての指示 登下校マニュアルの確認 天候により下校		区役所職員 校長等待機 浸水域物資を階上へ移動	避難所開設支援	緊急安全確保支援 避難所運営愛支援	
	事業所等	商品・機器の保護計画 浸水域外駐車場開放		全員避難		緊急安全確保	

ある連合町内会長の依頼で、鷺山がワークショップの素案資料として試作したもの。自治会・マンション・民生委員、学校、事業所のグループで、これをベースに、できること、できないこと、やるべきことを協議するワークショップを計画している。

大倉山地区

自治会長様 マンション代表様 民生委員様 消防団員様 学校長様 幼稚園・保育園長様
商店会長様 事業所長様 港北区総務課長様 その他関係団代表様

大倉山地区連合町内会
会長 小沢 義雄
太尾小学校地域防災拠点運営委員会
会長 竹崎 理浩
大綱小学校地域防災拠点運営委員会
会長

大倉山地区連合町内会「防災研修会」兼「防災まちづくり協議会」開催について

日頃より、大倉山地区の防災まちづくりへのご協力を賜り感謝申し上げます。

本地区では、地震防災に対する対策は進展しておりますが、洪水等の想定は市内でも極めて厳しいものがあります。大倉山地区すべての住民と関係諸機関等が一丸となった防災行動計画策定が課題です。

そこで、港北区総務課「防災キャラバン」事業に依頼し、防災研修と、実質的にも地区の「防災まちづくり協議会」を兼ねた事業を企画しました。

つきましては、地区の防災力向上のために、ぜひご出席いただきますようご案内申し上げます。

- 1 イベント名 大倉山地区連合町内会「防災研修」兼「防災まちづくり協議会」

「大倉山地区 風水害タイムライン」策定をめざして

- 2 令和4年12月10日(土) 10:00~12:30 受付9:30~

- 3 主催 港北区総務課 (港北区総務課 令和4年度 防災キャラバン事業)
大倉山地区連合町会 太尾小地域防災拠点運営委員会 大綱小地域防災拠点運営委員会

- 4 会場 太尾小学校体育館

- 5 対象 大倉山地区連合町会長 自治会長 マンション代表 民生委員 学校職員
幼稚園・保育園 商店会 事業所等 港北区総務課 国土交通省 その他関係団体
◎会場でネットからの入力による参加(タイムライン統合)をします。各団体で、スマートフォン、パッド等で簡単なフォームへの入力ができるご準備をお願いいたします。

- 6 講師・ファシリテーター 防災士 鷲山龍太郎氏 元太尾小学校長
「防災塾・だるま」塾長 未来防災NET代表

- 7 目的 大倉山地区の風水害への総合的な事前防災行動計画「地区タイムライン」策定を目指す。

地区タイムライン作成のポイント

- マルチハザードのリスクを理解
- それぞれの主体の責務、貢献できること
との理解
- 主体の組織が自ら考え、参画すること
(Our Timeline)アワ・タイムライン
- → Cサロン開発」
- 「タイムライン統合システム」
- 見える化の中で学び合うこと
- 災害後の反省 PDCAサイクル
- 公助タイタイムラインと地区タイムラインの整合 🙌 マイ・タイムライン

「大倉山地区 風水害タイムライン」策定をめざして

12月10日（土）開催の「港北区総務課防災キャラバン in 大倉山地区連合町会」では、研修参加の皆様のお取り組みにより、インターネットを活用した「風水害タイムライン」（研修データ）のリアルタイムでの構築が実現しましたので、次のようにご報告いたします。

2022年12月12日 講師 鷲山龍太郎

【当日会場で配付した資料】

大倉山地区連合町内会「防災研修」兼「防災まちづくり協議会」

「大倉山地区 風水害タイムライン」策定をめざして

- 1 令和4年12月10日（土） 10:00～12:30
- 2 主催 港北区総務課（港北区総務課 令和4年度 防災キャラバン事業）
大倉山地区連合町会 太尾小域防災拠点運営委員会 大綱小地域防災拠点運営委員会
- 3 会場 太尾小学校体育館
- 4 講師・ファシリテーター 防災士 鷲山龍太郎 元太尾小学校長
「防災塾・だるま」塾長 未来防災 NET 代表
- 5 目的 大倉山地区の風水害への総合的な事前防災行動計画「地区タイムライン」策定を目指す。
- 6 内容
 - (1) 講義の部
 - ・地形やハザードマップから知る大倉山洪水想定 ・「地区タイムライン」の必要性
 - (2) グループ・ワークショップの部（自治会・マンション・学校・消防団・民生委員・事業所等グループで協議。）
 - ・責務、役割の理解 ・警戒レベルに対応した事前防災行動計画の協議
 - (3) 仮想タイムラインの作成と統合（各主体から入力された行動計画が一覧表の「タイムライン」に統合されます。）
 - ・統合ツールにスマートフォン等から入力 ・統合した「大倉山地区タイムライン」の確認と発表
 - (4) 今後のタイムライン作成と運用の展望

港北区総務課防災キャラバン IN 大倉山地区連合町会 資料ページ

QRコードで入れない方は、「未来防災」または、mirai-bousai.net で検索。

「未来防災 NET」トップページの



New![港北区総務課防災キャラバンin大倉山地区連合町会資料ページ](#)

大倉山地区風水害タイムライン統合ツール（講演中のご案内にてご入力ください）



パスワードが必要な場合は

（英数文字で） 1 2 1 0

- 資料は各自治会、組織等でご活用ください。
- 防災研究者等への紹介、資料活用はご承諾をお願いします。

質問・相談等 講師連絡先

H P 未来防災 NET mirai-bousai.net 連絡フォームあります。

想定最大規模浸水深度*

- なし
- 0.0~0.5m未満
- 0.5~3.0m未満
- 3.0~5.0m未満
- その他

土砂災害警戒区域

- あり
- なし
- その他選択肢 3
- 選択肢 4

警戒レベル1「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目) *

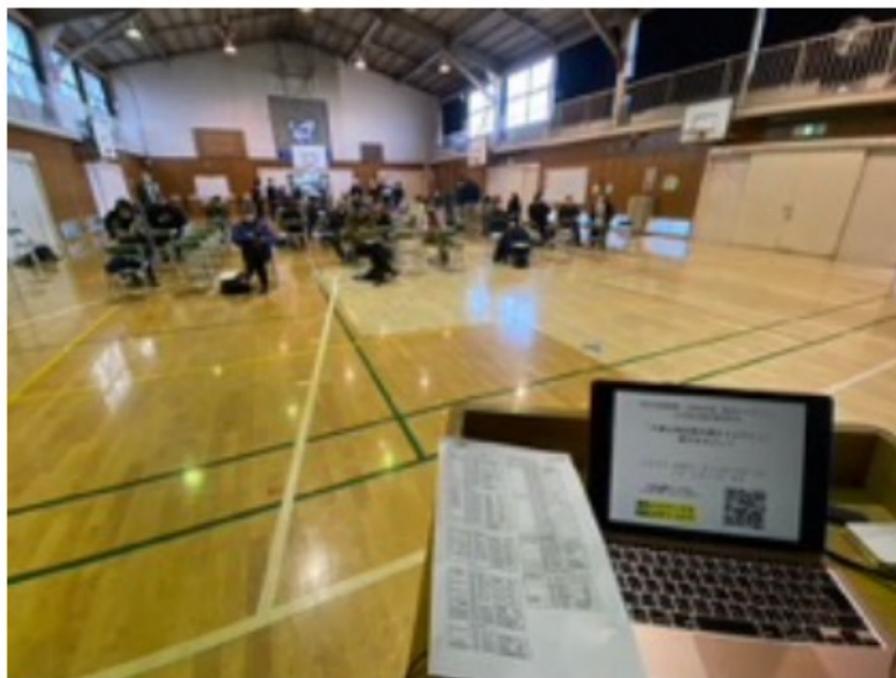
- 情報収集
- 連絡体制確立
- 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
- 区域の高齢者等把握
- 休校・休業措置の決定
- 施設・設備・重要物の移動
- 階上駐車場の開放準備
- 自動車等の避難用駐車場確保
- 電気室・浸水被害施設の保護
- その他...

...

警戒レベル2「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内) *

- 情報収集
- 連絡体制確立
- 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
- 区域の高齢者等把握
- 休校・休業措置の決定
- 施設・設備の移動
- 階上駐車場の開放準備
- 自動車等の避難用駐車場確保

1 講演・ワークショップの様子写真



太尾小体育館にて講演会前



ワークショップ「学校関係グループ」の検討
総務課職員の助言



グループ・ワークショップの部 (連合町会本部・自治会・マンション・学校・地域防災拠点・民生委員・事業所等グループで協議。)





仮想タイムラインの作成と統合 統合ツールにスマートフォン等から入力
入力したタイムラインデータはリアルタイムに統合されてスクリーンに表示される。



統合した「大倉山地区タイムライン」各グループ及び連合町会本部からの課題と解決策の発表

2 研修データ

会場の参加者 スマートフォンから入力したデータをリアルタイム統合したもの

(1) 入力データ一覧全体 (グループ内での複数回答等は整理)

港北区総務課防災キャラバンin大倉山地区連合町会2022「タイムライン」研修データ
(研修データ)「大倉山地区 風水害タイムライン」2022.12.10

研修参加者データ				風水害タイムライン(事前防災行動計画)						研修後の課題と考察			
タイムスタンプ	タイムラインコード・組織名	想定最大規模浸水深	上記災害想定区域	「緊急安全確保」で避難したい建物	想定する「指定緊急避難場所」	警戒レベル1「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目)	警戒レベル2「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル3「危険な場所から高齢者等避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル4「危険な場所から全員避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル5「緊急安全確保」での対応(優先する2項目以内)	見えてきた課題(ご記入をお願いします)	課題解決への提案(ご記入をお願いします)	
2022/12/10 11:48	連語町内会本部グループ	0.5~3.0m未満	なし	自宅建物2階以上	自宅・自建物	情報収集、連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、高齢者等避難の呼びかけ	災害対策本部開設、避難場所開設	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先、救出活動	対象範囲が広すぎる	各地域のタイムラインの策定指導と確認	
2022/12/10 11:32	町内会グループ	3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上、近くのマンション(受け入れてくれれば)	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、連絡体制確立	情報収集、災害対策本部開設	自身の安全確保、連絡体制確立	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援			
2022/12/10 11:40	マンショングループ	3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上、大綱小学校	港北公会堂、自宅・自建物	情報収集、連絡体制確立、区域の高齢者等把握、自動車等の避難用駐車場確保、電気室・浸水被害施設の保護、高齢者等避難の呼びかけ	自動車等の避難用駐車場確保、電気室・浸水被害施設の保護、高齢者等避難の呼びかけ	浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援、電気室・浸水被害施設の保護	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先、救出活動	マンション1階に高齢者が多いが、近くの大綱小学校には避難できないので、避難をどこにしてもらうかが問題	自治会内で話し合っ避難場所、タイムラインを考えていく	
2022/12/10 11:35		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	連絡体制確立、高齢者等避難の呼びかけ	避難場所緊急開放、高齢者等避難の呼びかけ	避難所開設・運営支援、避難場所緊急開放	早急なタイムラインや自治会での対応確立	自治会での相談、明文化	
2022/12/10 11:38		3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上、太尾小学校	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	区域の高齢者等把握、電気室・浸水被害施設の保護	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	連絡体制確立、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援	マンションでの対応が明文化されていないこと	理事会での話し合い	
2022/12/10 11:36		0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	自宅・自建物	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、自家用車等避難	敷地外駐車場への対応、止水版、放水版、土嚢の用意	マンション上部から見晴らしの丘公園にかけての路上駐車、防災委員会での備品化検討	
2022/12/10 11:43		0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	大豆戸小、港北公会堂	情報収集、区域の高齢者等把握	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	情報収集、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保、連絡体制確立	自身の安全確保優先、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	高齢者が避難場所がわかりづらいのではないか。	高齢者への見守りできまわるときに、避難場所の周知をしたらどうか。	
2022/12/10 11:30	民生委員グループ	3.0~5.0m未満	その他選択	近くのマンション(受け入れてくれれば)	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	自身の安全確保、避難場所緊急開放	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援			
2022/12/10 11:34		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、高齢者等避難の呼びかけ			
2022/12/10 11:37		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	自身の安全確保優先、救出活動	いざという時のための準備と覚悟と	家族でも地域でもコミュニケーションを良くしておく	
2022/12/10 11:37		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、区域の高齢者等把握	情報収集、連絡体制確立、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保、避難場所緊急開放、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援	地域毎に事前の決まりを決めておく必要があると思う、	地域毎に事前に話し合っておく	
2022/12/10 11:37		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、高齢者等避難の呼びかけ	家族、地域(町会)で日頃より話し合う。	生命を守る為に、家族や地域で日頃から備えていく。	
2022/12/10 11:37		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保、高齢者等避難の呼びかけ	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、高齢者等避難の呼びかけ	高齢者避難呼びかけの判断	自治会の方連との事前の共通理解	
2022/12/10 11:40		3.0~5.0m未満	その他選択	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保、高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先、高齢者等避難の呼びかけ	地域もそうだが家族でも話し合いが必要	自分なりに学び話し合いをする機会があれば参加する	
2022/12/10 11:50		社会福祉協議会グループ	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校、大綱小学校、太尾小学校	大豆戸小	情報収集、連絡体制確立	情報収集、高齢者等避難の呼びかけ	避難場所開設、浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保	救出活動、浸水域住民等を階上に避難誘導		
2022/12/10 11:47		地域防災拠点等グループ	3.0~5.0m未満	あり	太尾小学校	港北公会堂	情報収集、連絡体制確立	高齢者等避難の呼びかけ	要支援者避難	自身の安全確保、避難遅れ確認	自身の安全確保優先	タイムラインをつくる	地域で密に話す機会をつくる
2022/12/10 11:53		学校・保育園関係グループ	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校	菊名小	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、休校・休業措置の決定	連絡体制確立、災害対策本部開設	自身の安全確保優先、自衛水防活動	緊急避難所になっていない学校としての基本スタンスをどう定めるか、	様々なケースを想定し、タイムラインを検討・作成する組織の構築。
2022/12/10 11:48	3.0~5.0m未満		なし	大綱小学校	香取避難	情報収集、連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ、施設・設備の移動	休校・休業措置の決定、水防活動	避難場所緊急開放、スタッフ状況の確認と対応命令	浸水域住民等を階上に避難誘導、情報収集及び市教委との連絡	水浸に備えた避難経路等の意識がなかった	タイムライン的な分冊を予め決めておく	
2022/12/10 11:58	0.5~3.0m未満		なし	太尾小学校	大豆戸小	情報収集、施設・設備・重要物の移動	情報収集、休校・休業措置の決定	休校・休業措置の決定、施設・設備の移動	自身の安全確保、避難場所開設	自身の安全確保優先、避難所開設・運営支援	いかに早く情報を収集して早く判断できるかが大切であることがよくわかりました。	事前に解決できる課題(電源設備の対策や貴重物資の階上での保管など)を検討することができると良いと思います。	
2022/12/10 11:52	3.0~5.0m未満		なし	大綱小学校	大綱小学校	情報収集、連絡体制確立	情報収集、連絡体制確立	情報収集、休校・休業措置の決定	スタッフ帰宅、施設・設備の移動	自身の安全確保優先、スタッフ帰宅	本日は菊名小へ避難すべきだが、小さい子どもを連れては難しい。	早めに休園判断が必要	

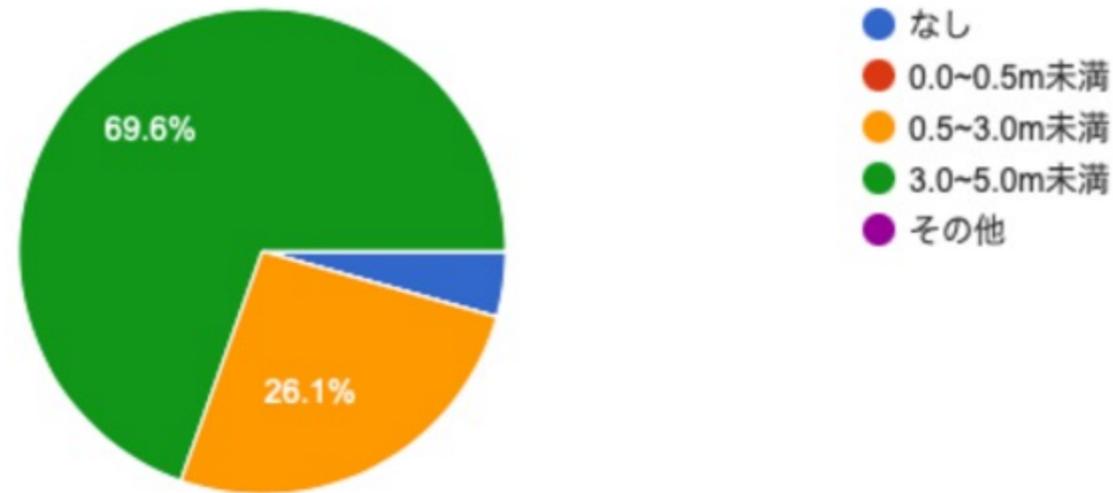
(2) タイムライン部分

港北区総務課防災キャラバンin大倉山地区連合町会2022「タイムライン」研修
(研修データ)「大倉山地区 風水害タイムライン」2022.12.10

研修参加者データ					風水害タイムライン(事前防災行動計画)					
タイムラインコード・組織名	組織コード	想定最大規模浸水深度	土砂災害警戒区域	緊急安全確保で避難したい建物	想定する「指定緊急避難場所」	警戒レベル1「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目)	警戒レベル2「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル3「危険な場所から高齢者等避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル4「危険な場所から全員避難」での対応(優先する2項目以内)	警戒レベル5「緊急安全確保」での対応(優先する2項目以内)
連合町会本部	101	0.5~3.0m未満	なし	自宅建物2階以上	自宅・自建物	情報収集, 連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 高齢者等避難の呼びかけ	災害対策本部開設, 避難場所開設	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先, 救出活動
町会グループ	204	3.0~5.0m未満	その他選択3	自宅建物2階以上, 近くのマンション(受け入れてくれれば)	自宅・自建物	情報収集, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 災害対策本部開設	自身の安全確保, 連絡体制確立	自身の安全確保優先, 避難所開設・運営支援
マンショングループ	302	3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上, 大綱小学校	港北公会堂, 自宅・自建物	情報収集, 連絡体制確立, 区域の高齢者等把握, 自動車等の避難用駐車場確保	自動車等の避難用駐車場確保, 電気室・浸水被害施設の保護, 高齢者等避難の呼びかけ	浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援, 電気室・浸水被害施設の保護	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保優先, 救出活動
	304	3.0~5.0m未満	その他選択3	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 連絡体制確立	連絡体制確立, 高齢者等避難の呼びかけ	避難場所緊急開放, 高齢者等避難の呼びかけ	避難所開設・運営支援, 避難場所緊急開放
	307	3.0~5.0m未満	なし	自宅建物2階以上, 太尾小学校	自宅・自建物	情報収集, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	区域の高齢者等把握, 電気室・浸水被害施設の保護	情報収集, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	連絡体制確立, 高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先, 避難所開設・運営支援
	308	0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	自宅・自建物	情報収集, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	情報収集, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 自家用車等避難	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 自家用車等避難
民生委員グループ	401	0.5~3.0m未満	なし	大綱小学校	大豆戸小, 港北公会堂	情報収集, 区域の高齢者等把握	情報収集, 高齢者等避難の呼びかけ	情報収集, 浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保, 連絡体制確立	自身の安全確保優先, 浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ
	402	3.0~5.0m未満	その他選択3	自宅建物2階以上	港北公会堂	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保, 高齢者等避難の呼びかけ	自身の安全確保優先, 高齢者等避難の呼びかけ
社会福祉協議会グループ	403	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校, 大綱小学校, 太尾小学校	大豆戸小	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 高齢者等避難の呼びかけ	避難場所開設, 浸水域の高齢者避難呼びかけ・支援	自身の安全確保	救出活動, 浸水階住民等を階上に避難誘導
地域防災拠点等グループ	501	3.0~5.0m未満	あり	太尾小学校	港北公会堂	情報収集, 連絡体制確立	高齢者等避難の呼びかけ	要支援者避難	自身の安全確保, 避難遅れ確認	自身の安全確保優先
学校関係グループ	602	3.0~5.0m未満	なし	大綱中学校	菊名小	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 休校・休業措置の決定	連絡体制確立, 災害対策本部開設	自身の安全確保優先, 自衛水防活動
	603	3.0~5.0m未満	なし	大綱小学校	垂直避難	情報収集, 連絡体制確立	浸水想定域(階)の住民に注意呼びかけ, 施設・設備の移動	休校・休業措置の決定, 水防活動	避難場所緊急開放, スタッフ状況の確認と対応命令	浸水階住民等を階上に避難誘導, 情報収集及び市教委との連絡
	604	0.5~3.0m未満	なし	太尾小学校	大豆戸小	情報収集, 施設・設備・重要物の移動	情報収集, 休校・休業措置の決定	休校・休業措置の決定, 施設・設備の移動	自身の安全確保, 避難場所開設	自身の安全確保優先, 避難所開設・運営支援
	701	3.0~5.0m未満	なし	大綱小学校	大綱小学校	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 連絡体制確立	情報収集, 休校・休業措置の決定	スタッフ帰宅, 施設・設備の移動	自身の安全確保優先, スタッフ帰宅

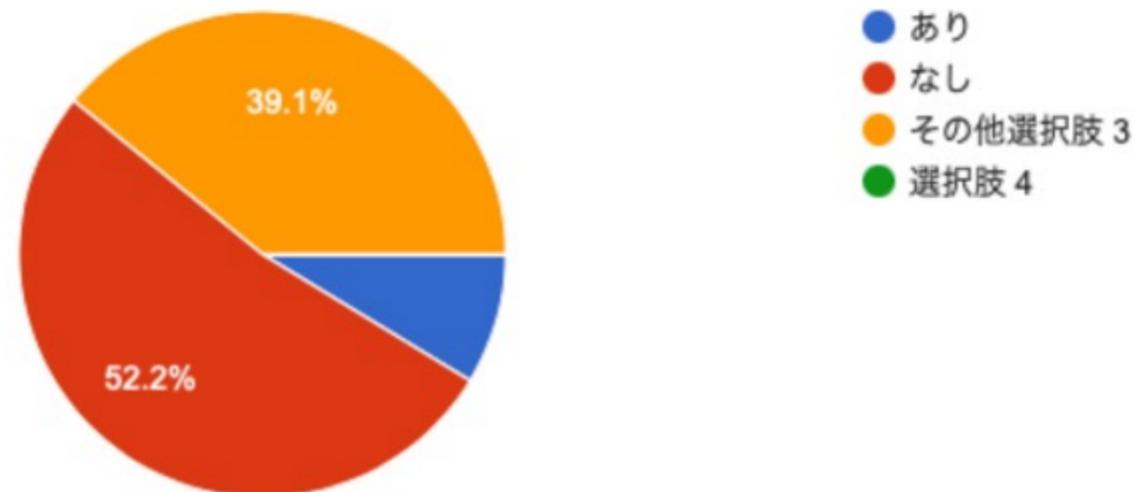
想定最大規模浸水深度
23 件の回答

コピー



土砂災害警戒区域
23 件の回答

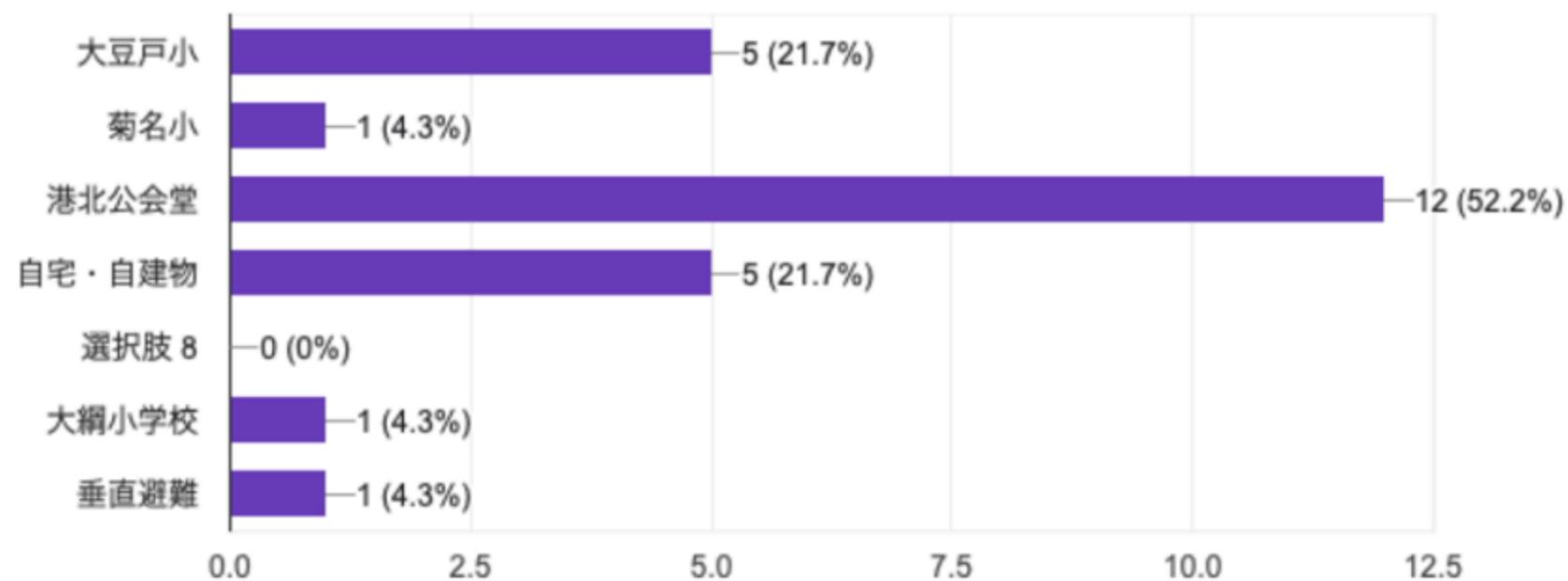
コピー



想定する「指定緊急避難場所」

コピー

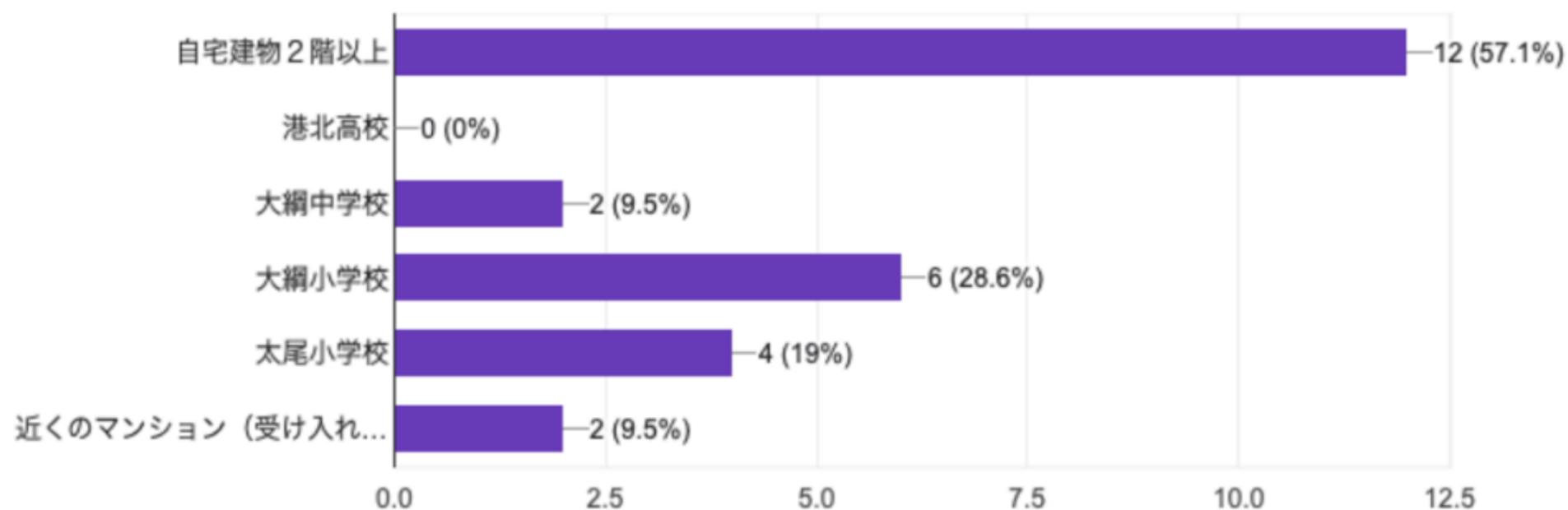
23 件の回答



「緊急安全確保」で避難したい建物

コピー

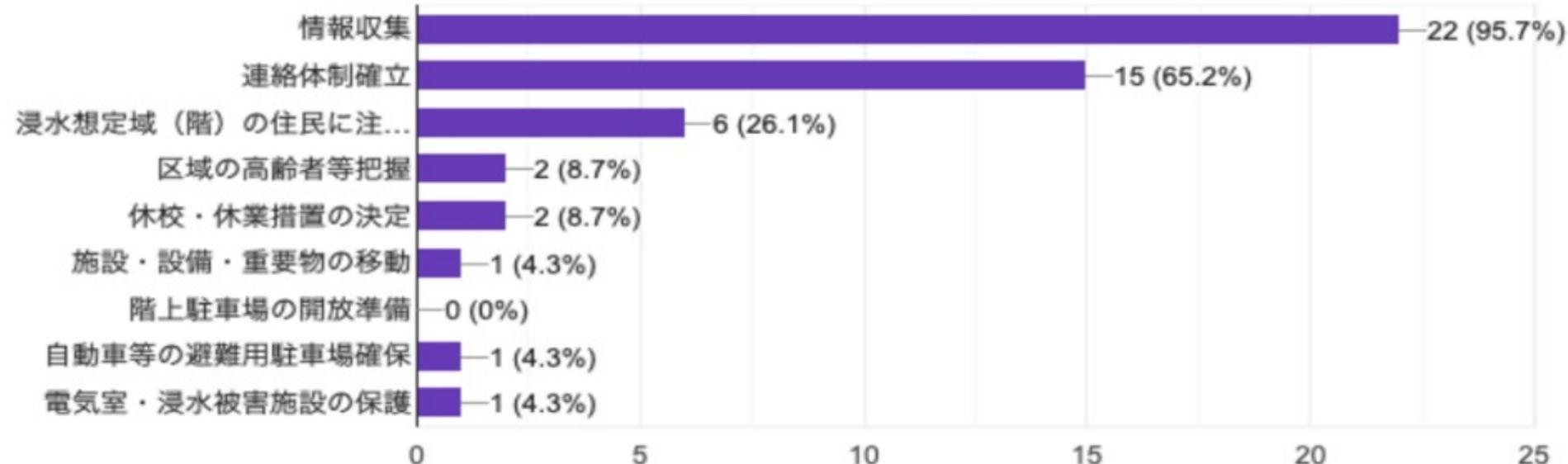
21 件の回答



警戒レベル1 「災害への心構えを高める」での対応(優先する2項目)



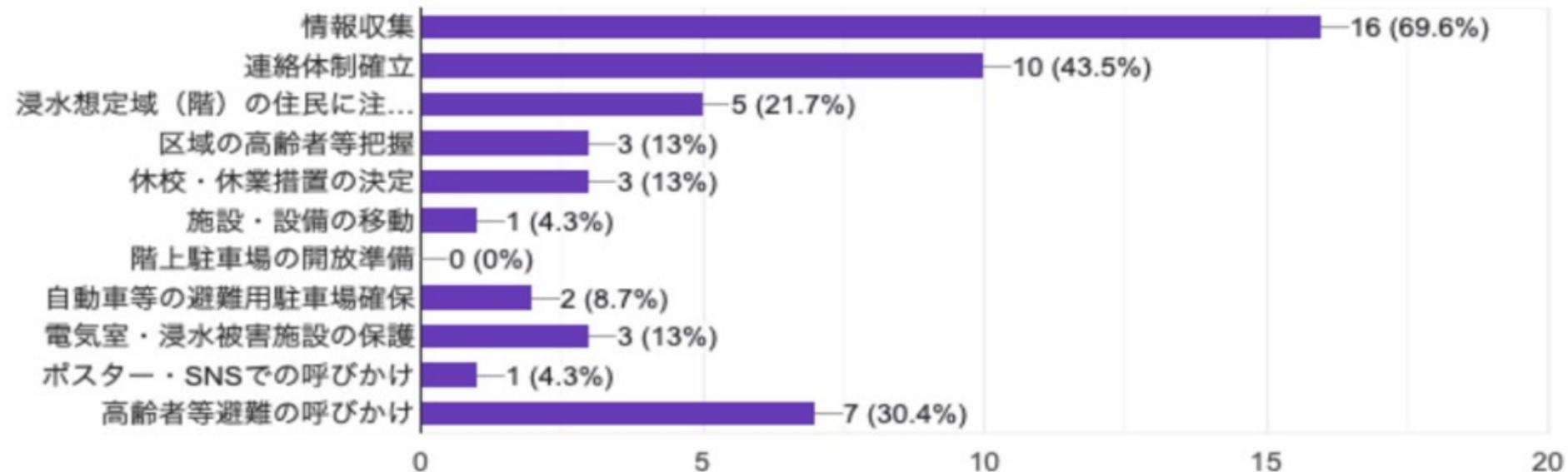
23件の回答



警戒レベル2 「自らの避難行動を確認」での対応(優先する2項目以内)



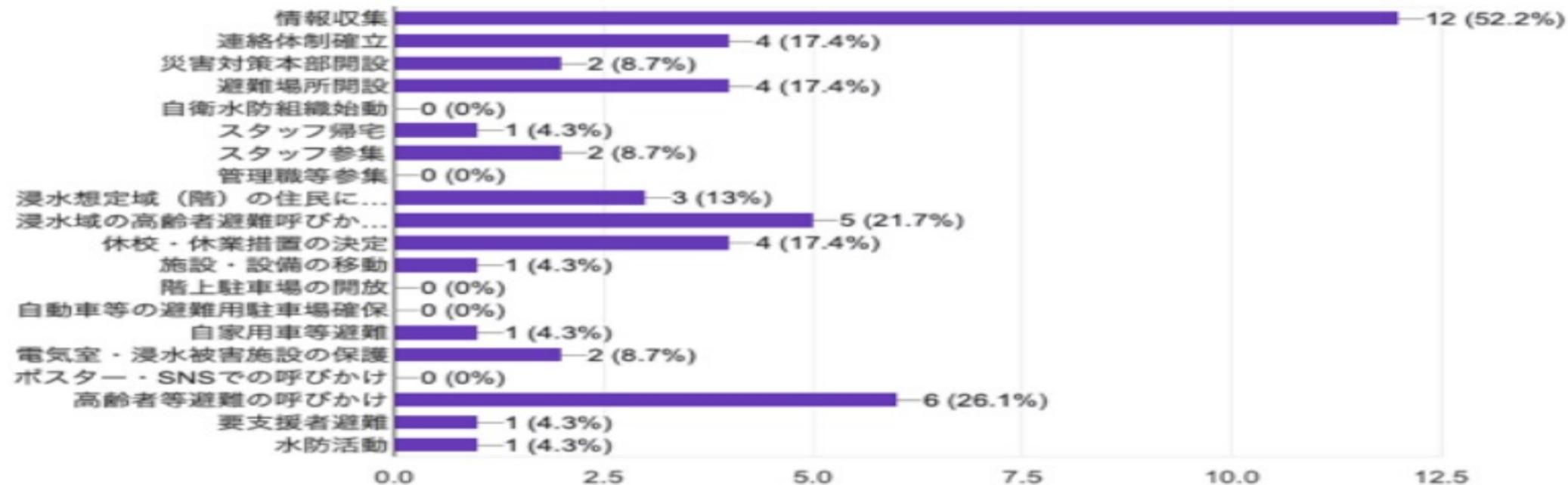
23件の回答



警戒レベル3「危険な場所から高齢者等避難」での対応(優先する2項目以内)



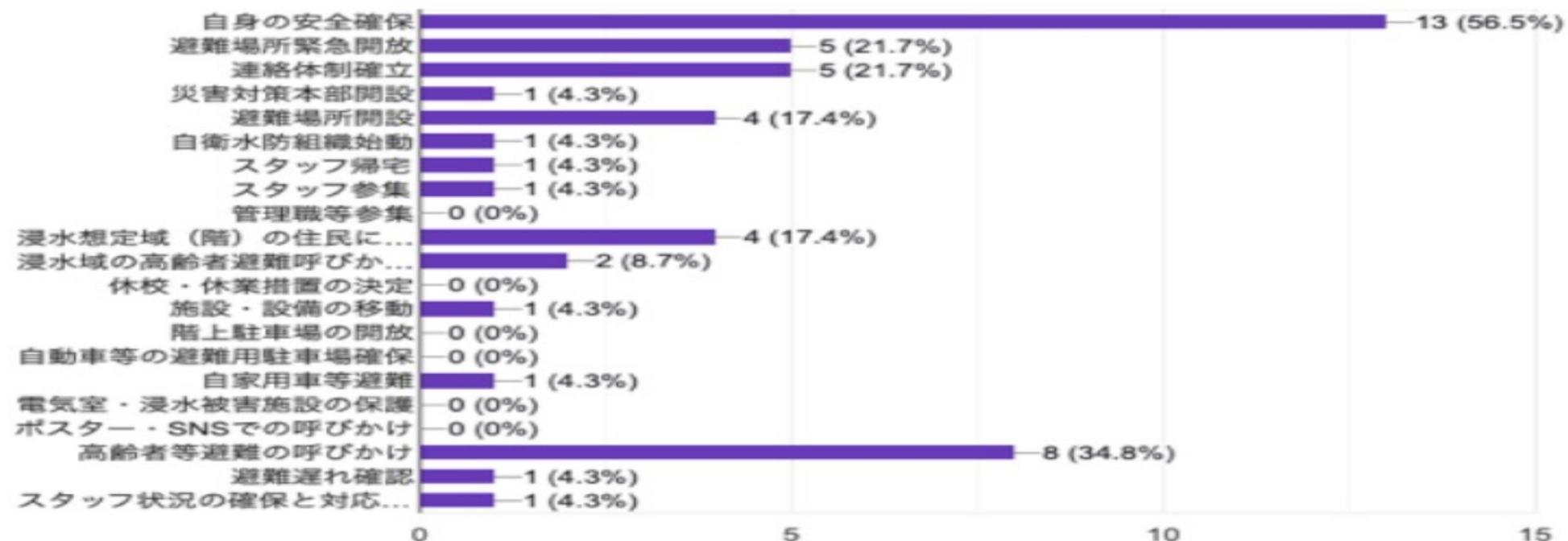
23件の回答



警戒レベル4「危険な場所から全員避難」での対応(優先する2項目以内)



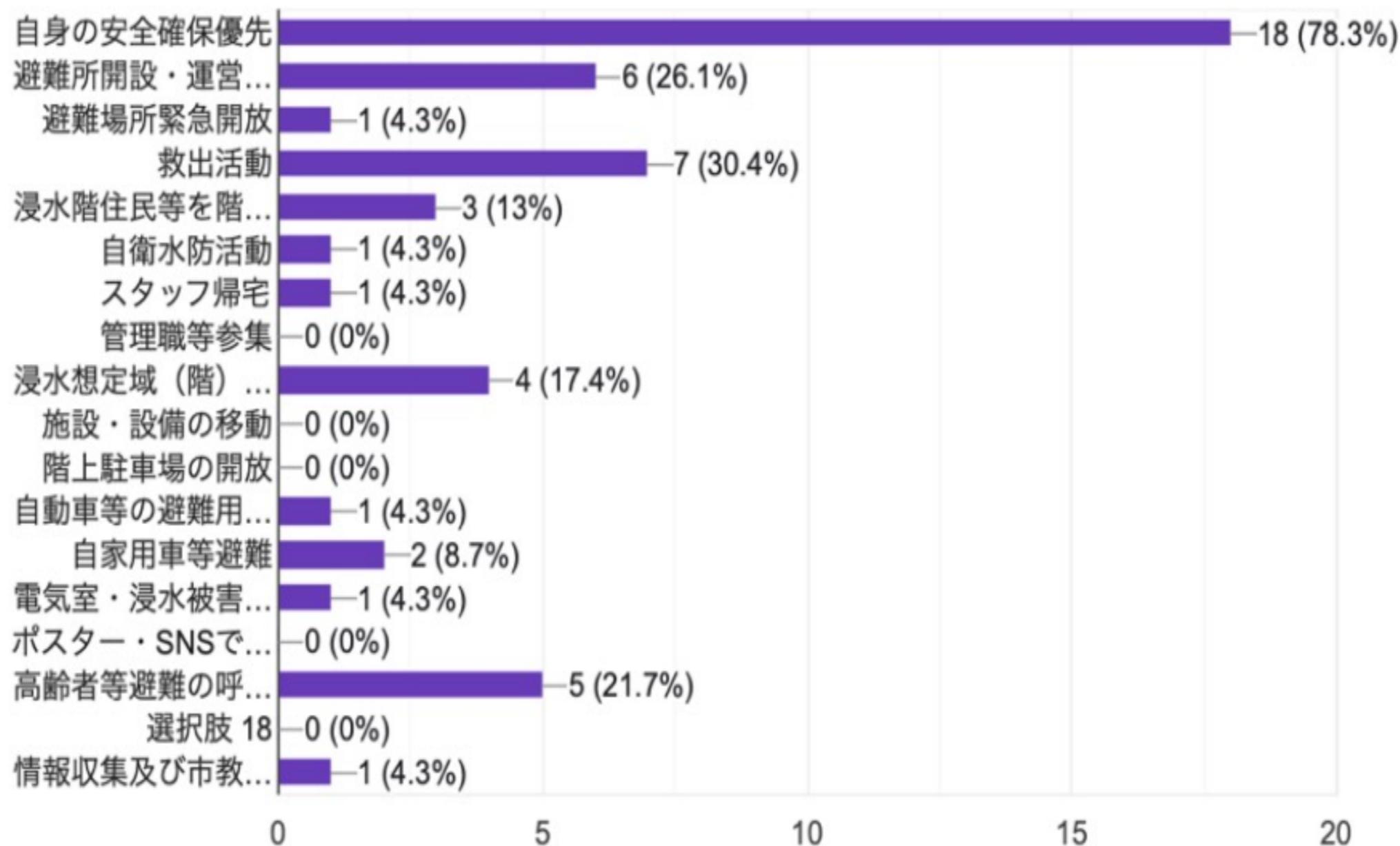
23件の回答



警戒レベル5「緊急安全確保」での対応(優先する2項目以内)



23件の回答



4 課題と解決策

グループ	見えてきた課題	課題解決への提案
連合町会本部	対象範囲が広すぎる	各地域のタイムラインの策定指導と確認
マンショングループ	マンション1階に高齢者が多いが、近くの大綱小学校には避難できないので、避難をどこにしようかが問題	自治会内で話し合っって避難場所、タイムラインを考えていく
	早急なタイムラインや自治会での対応確立	自治会での相談、明文化
	マンションでの対応が明文化されていないこと	理事会での話し合い
	敷地外駐車場への対応 止水版、放水版、土嚢の用意	マンション上部から見晴らしの丘公園にかけての路上駐車、防災委員会での備品化検討
民生委員グループ	高齢者が避難場所がわかりづらいのではないかな。	高齢者への見守りでまわるときに、避難場所の周知をしたらどうか。
	いざという時のための準備と覚悟と	家族でも地域でもコミュニケーションを良くとっておく
	地域毎に事前の決まりを決めておく必要があると思う、	地域毎に事前に話し合っておく
	家族、地域(町会)で日頃よりよく話し合う。	生命を守る為に、家族や地域で日頃から備えていく。
	高齢者避難呼びかけの判断	自治会の方達との事前の共通理解
	地域もそうだが家族でも話し合いが必要	自分なりに学び話し合いをする機会があれば参加する
地域防災拠点他グループ	タイムラインをつくる	地域で密に話す機会をつくる
学校・保育園関係グループ	緊急避難所になっていない学校としての基本スタンスをどう定めるか。	様々なケースを想定し、タイムラインを検討・作成する組織の構築。
	水没に備えた書類避難等の意識がなかった	タイムライン的な分担を予め決めておく
	本来は菊名小へ避難すべきだが、小さい子どもたちを連れては難しい。	早めに休園判断が必要
	いかに早く情報を収集して早く判断できるかが大切であることが良くわかりました。	事前に解決できる課題(電源設備の対策や備蓄物資の階上での保管など)を検討することができると良いと思います。

Cサロンからの提言案

家庭防災への提言	1 地域のリスクを知る。(マイTLの前に「地区TL」) (2) 公助TL→共助TL→自助TL+業助TLの連携 を。
地域防災への提言・支援	(1) 「地区タイムライン」「統合ツール」の研究実践 (Googleフォーム利用)によるタイムライン作成研修。 実践 12月10日大倉山地区連合町会で実施 実用的であることが実証できた。 気づき→参画(TLツール)→行動→減災
自治体防災への提言	(1)「防災基本計画」6月改定による、あらゆる災害への 行政等のタイムラインの実質化。 (二宮町TLの例)
国政等の理解	1 内閣府推進「地区防災計画」と国交省推進「タイムライン」との整合。 2「気候非常事態宣言」

Cサロン2年間のまとめ その1

- 東日本大震災、19年台風19号で被害を拡大している要因の一つは、災害リスクへの認識と「警報」を知ったときの、それぞれの組織、個人における行動についての整合がされていないことであることである。
- 「防災まちづくり」とはマルチハザード認識と、それぞれの防災行動計画（タイムライン）を整合させていくことではないか。
- 「地区」には、自治会、マンション、学校、事業所、消防団、民生委員等々、多様な組織が存在している。それぞれのOurTimeLine(OTL：Bサロン用語?)が必要である。
- 地区でそれを時系列の一覧表に整合させることができれば、それが「地区タイムライン」TikuTimeLine(TTL)となる。
- しかし、それを時系列の一覧表にすることは労力と技術が必要なので、高齢化が進む自治会等に提案しても、「必要はわかるが無理」という反応になりやすい。

Cサロン2年間のまとめ その2

- 大川小学校元保護者佐藤敏郎氏との対談、台風19号被災者河原典子氏の講演分析を通して、Cサロンとしては「タイムライン」についての正確な認識に達して、「防災塾・だるま通信9月号」にも公開した。
- 「タイムライン」という用語は、東大客員教授松尾一郎氏発案によるもので、国交省の「ハリケーン・サンディ調査団報告」を起源としている。
- 本来の「タイムライン」は行政と諸機関の事前防災行動計画である。
- 松尾氏は、足立区の防災に助言して、行政タイムライン（GTL）に連携した「地区タイムライン」（CTL）構築支援を実践していて、Cサロンとしては注目した。
- 10月のCサロンでテスト。短時間でTL構築ができることがわかった。

Cサロン 2年間のまとめ その3

- 大倉山地区の水害対策は、鷺山にとって結果的に2年越しの取り組みになったが、その間に、ITを活用したTL統合ツールの開発が進んだ。
- 連合会地区自治会長、マンション、学校・幼稚園、消防団、地域防災拠点、消防団、民生委員90人に連合町会長、地域防災拠点運営いい会会長名で案内を送付。
- 12月10日、鷺山によるマルチハザード解析に続いて、本部、自治会長、マンション、学校・幼稚園、消防団、地域防災拠点、消防団、民生委員グループに別れて協議して、リアルタイムにタイムラインを構築。
- この方法なら、地区に存在する多様な組織のOTLを統合してCTLにして、データ共有できることが実証できた。
- コロナワクチン予約等を経て、高齢者も多くは、QRコードの読み込み、フォームへの回答や書き込みができるようになってきている。
- これまで、「紙と付箋」でやっていたワークショップも、この手法を活用することで、効率化、即時データ化ができる。

Cサロン 成果と課題

(成果)

- 東日本大震災、台風19号風水害からの教訓から、タイムラインについての正確な認識を得て、「地区タイムライン」の必要性を提言できる。
- 「地区タイムライン」CTL構築には地区内の多様な組織主体に「組織タイムライン」OTLを統合する必要があるが、そのツールを開発して、実践し、有用性がわかった。

(課題)

- タイムライン構築などの必要性に気づかせ、構築作業に取り組む流れの醸成。
- タイムラインIT構築ツールによる実践の積み重ねと応用。(BCP/DIG/HUGにも?)
- 「研修タイムライン」から「災害時実動タイムライン」に。

Cサロン2021～2022活動報告

公助・共助・自助の隔たりの
「突破!」

～みんなが参画して作るタイムライン～

「地区タイムラインIT統合ツール」を開発